

令和元年度(2019 年度)事業報告

自 平成 3 1 年(2019 年) 4 月 1 日
至 令和 2 年(2020 年) 3 月 3 1 日

公益財団法人札幌市公園緑化協会

事業運営の概要

当協会の使命と目的の達成のため、令和元年度も引き続き公園施設での安全・安心の確保を基本として、利用動向を的確に把握し、都市緑化の推進、公園緑地等の良好な管理と利活用促進等を通じて、不特定多数の方々に利益を還元する公益性の高い事業の執行に努めてきました。

こうした中、11月末で受託期間満了となった国営滝野すずらん丘陵公園では引き続き管理団体代表として再受託でき、また、指定管理の最終年度を迎えた札幌市豊平川さけ科学館は、これまでの実績や提案等が評価され、再選定されました。

しかし、1月末に新型コロナウイルスが日本国内で確認され、2月末からは当協会が管理する公園・施設においても、札幌市の指示のもと公園施設の一部閉鎖や予定した事業を中止することとなりました。

会計別事業において、公1事業では、札幌市都市緑化基金の運用益活用等による民有地緑化と緑化普及啓発事業のほか、ガーデニングボランティアの養成・ネットワーク化の推進を図りました。

公2事業では、新たに5年間の指定管理期間が始まった2公募区の指定管理公園をはじめ、全公園・施設で新たな事業に積極的に取り組みつつ、公園・施設の魅力を最大限に発揮すべく管理運営に努めました。特に、市民協議会等との連携など市民参加や地域との協働を進め、利用者の満足度と公園施設の魅力向上に努めました。また、それぞれの特性を生かした講習会の実施・イベント等の開催、プレーパークなど子どもの外遊びのサポートに取り組んだほか、より良好な植物管理や生物多様性保全等を図るため、大学や外部機関との連携により、各種の取組や普及啓発に留意しました。

緑化植物園では緑の相談や様々な講習会を実施し、園芸知識・技術の向上、緑化の普及啓発を図りました。公園内の運動施設では、安全で快適な利用環境を提供するため、各種運動教室や運動クラブの運営など、施設を活用した市民の健康増進、競技力の向上、スポーツ振興などに取り組みました。

国営滝野すずらん丘陵公園では、運営維持管理業務の代表団体として全体のマネジメント及び各事業の企画立案・実施のほか、園内施設等を適正に管理しました。

収益事業については、公益事業の原資となる営業収益の確保のため、季節感と付加価値のある植物販売、ニーズや公園特性に応じた商品の提供など、お客様サービスの向上に努めました。

法人運営全体としては、札幌市の出捐金割合の見直しを図り、札幌市所管部局との協議に基づき300万円を返還（寄付）しました。また、当協会の中・長期的な収支の見通しを明確化する中で、市民サービスの向上とともに職員の処遇改善を図り、職員の雇用と安定した人件費を確保するために特定費用準備金を積み立てました。そのほか、安定的な事業展開を図るための組織改編、人材育成の推進やコンプライアンスの徹底、安全管理体制の充実、一般事業主行動計画策定等の労働環境整備などにより、運営管理の改善強化を図りました。

公 1 都市緑化基金等事業

札幌市都市緑化基金への募金等造成状況

令和2年3月31日現在

区 分		昭和59年度～ 平成30年度	令和元年度	累 計
(財)都市緑化基金助成		3,000,000	0	3,000,000
札幌市補助金		456,287,020	3,154,274	459,441,294
	助成等	287,174,944	0	287,174,944
	一般募金	169,112,076	3,154,274	172,266,350
協会への寄付金		28,540,051	605,173	29,840,438
	個 人	1,397,934	0	1,397,934
	募金箱	4,122,995	175,173	4,298,168
	企業・団体	13,434,336	430,000	13,864,336
	協会繰入	10,280,000	0	10,280,000
総 計		488,522,285	3,759,447	492,281,732

1 植樹等による民有地緑化事業

(1) 苗木等の配布

植樹機会の誘引など民有地緑化の推進を図るため、市民の慶事に際してライラックの苗木 167 本、中道リース株式会社寄贈のエゾヤマザクラ 50 本を配布した。

(2) 壁面緑化の推進

塀や建物を植物で覆うことにより、民有地緑化の推進を図るため、札幌市民に 5 件 42 株(補助は半数)のナツツタの苗を補助した。

2 緑化推進に関する普及啓発事業

(1) キラリ！さっぽろ公園 30 選

緑化意識の高揚と啓発を図るため、札幌市内の公園・緑地で撮影した緑や花、憩いのひととき、自然とのふれあい等がテーマの WEB フォトコンテストを実施し、グランプリ 1 点、準グランプリ 2 点、キラリ賞 27 点を選出し、ホームページ上で公開した。

応募総数 162 人 544 点

(2) 緑の絵コンクール

次代を担う子どもたちがみどりに親しみと興味を持ち、理解を深めてもらうため、札幌市内の小・中学生を対象とした絵画コンクールを実施した。

参加学校数 35 校 応募総数 524 点

表彰式 令和元年 11 月 9 日 ホテルノースシティ

入賞作品の展示 期間:令和元年 11 月 8 日～11 月 12 日(5 日間)

場所:札幌地下街オーロラコーナー

(3) 園芸等に関する冊子の発行

北国札幌で植物を扱う上での特徴や花や緑にふれる楽しさ等、園芸に関する知識や技術について解説する冊子を作成・配布したほか、公園での外遊びをテーマにしたレポートをまとめた。

タイトル:すくすくみどりNo.28 「はじめよう花壇づくり」

内 容:初心者(経験のない人)にもわかりやすい表現を用いて、花壇づくりを順序立てて解説。

タイトル:すくすくみどり技術レポートNo.3 「公園で豊かな外あそびを」

内 容:子どもの遊び場・環境教育の場として公園を活用した外遊びの事例紹介と、札幌のプレーパークの現状をレポート。

3 都市緑化サポーター養成事業

さっぽろまちづくりガーデニング講座

花や緑を通して地域や社会に貢献できるボランティア、都市緑化のサポーターの養成を目的に、まちづくりや園芸等の知識や技術を学ぶ全 18 回の連続講座を開講した。

受講者 24 人

4 緑を通して地域コミュニティの活性化を促す事業

フラワーポットの貸出し

身近な花と緑の創出、地域の環境改善・美化、地域コミュニティの活性化等を図るため、札幌市内の団体にフラワーポットを 3 年間無料で貸し出した。初年度は花苗と培養土も提供。

貸出数 5 団体 100 基(花苗 500 株)。

5 緑のまちづくり活動への助成及び支援事業

(1) さっぽろガーデンシティ活動事業助成

都市緑化の推進、緑化活動によるコミュニティの活性化等を図るため、市民団体等が行う花や緑の切り口としたまちづくり事業に対して、必要経費の一部を助成する事業を募集した。

※ 助成財源：一般財団法人民間都市開発推進機構(MINTO 機構)からの拠出金

(2) さっぽろ花と緑のネットワーク事務局の運営 ※さっぽろ花と緑のネットワーク推進支援事業委託業務

花と緑のボランティア活動に携わる人、関心を持つ人の相互交流や活動支援のため、花と緑の活動に携わる団体個人の取材・情報発信、支援情報の提供、講習会等のイベント企画運営を行った。また、市民に向けて「さっぽろ花と緑のネットワーク」の周知、「さっぽろタウンガーデナー」「花と緑のボランティア団体」への登録促進のための広報を行った。

① 登録数・・・団体 36 団体、個人 325 人（令和 2 年 3 月 31 日現在）

② 情報発信・広報の実施

ホームページの運営、会報誌「花と緑のネットワーク通信」の発行（年 4 回）、地域新聞・園芸雑誌等へのイベント情報・登録案内掲載、公園事務所・地下鉄駅へのポスター掲示等

③ まちづくり体験実習の実施

花と緑のまちづくりへの参加を促し、スキルアップを図るため通年の公共花壇づくり体験実習を運営した。

・ 市役所前コンテナガーデンづくり・・・11 回実施、延べ 145 人参加

・ 永山記念公園花壇づくり・・・10 回実施、延べ 62 人参加

④ 講習会等の実施

タウンガーデナーのスキルアップと相互交流を図るため、講習会と茶話会を実施した。

内 容		参加人数	未登録市民参加者
1	花壇づくりサポーター養成講座(全 3 回+実習)	延べ 45 人	71 人
2	身近な病害虫対策を学ぼう	33 人	
3	コミュニケーションスキル講習会	13 人	
4	宿根草の活用法	21 人	
5	種まき・育苗サポーター養成講座	10 人	
6	茶話会 グリーンピクニック	24 人	
7	茶話会 花まちサロン季節のミニリースづくり	24 人	49 人
合 計		290 人	

⑤ 研修見学会の実施

タウンガーデナーの知識向上と交流を深めるため、花のまちづくりの先進地を見学した。

・ 見学先：恵庭市恵み野オープンガーデン、商店街花壇

・ 実施日：令和元年 7 月 10 日 参加人数：15 人

⑥ 講演会の実施

花と緑のまちづくり活動が一層活発になることを目的に講演会を実施した。

・ イベント名：さっぽろ花と緑のまちづくり講演会 2019

宿根草でサステイナブルな景観づくり～多彩で多才な宿根草～

・ 講師：大森ガーデン 社長 大森康雄氏、専務・ガーデンデザイナー大森敬子氏

・ 実施日：令和元年 12 月 7 日 会場：札幌すみれホテル

・ 参加人数：講演会 201 人、交流会 42 人

⑦ 広報イベントの実施

さっぽろ花と緑のネットワーク事業や市内の花と緑のボランティア団体をパネルや写真展示で紹介した。また、登録案内リーフレットや花と緑のまちづくりハンドブックの配架を行った。

・ 実施日：令和 2 年 3 月 20 日～3 月 27 日

・ 場所：さっぽろ地下オーロラタウン内 オーロラコーナー

⑧ 技術指導講師派遣の実施

活動の技術的支援のため、登録ボランティア団体・登録者が主催する講習会に講師を派遣した。

・ 実施回数：8 回 延べ参加人数：130 人

公 2 指定管理等公園施設事業

1 公園緑地、自然環境及び都市緑化等に関する調査・研究

公園緑地における自然環境及び生物多様性の保全を図るため、生物・植物等の調査を実施するとともに、外来生物などの問題について地域全体の課題として捉えて啓発を図った。

(1) 大学、研究機関との連携による生物及び環境等の調査・研究

生物多様性の保全と自然の恵みを将来にわたり享受できる社会の実現、また持続可能な利用を推進するため、公園緑地等における現状の把握と課題の解決に向けた調査研究を行った。

特に、酪農学園大学と締結している「連携と協力に関する協定」に基づき、公園内の外来生物問題に関する調査等を継続して実施した。

このほか、大学の研究者や研究機関等と連携して自然環境等の問題について取り組み、改善に向けた対応策を検討・実施し、併せて市民への啓発を図った。

(2) 環境教育を通じた生物の調査及び報告展等の開催

次代を担う子どもたちによる生物調査プロジェクトとして、研究者等の指導により調査・研究を実施し、報告展及び展示解説を実施した。

(3) ボランティアとの協働による園内生物の調査及び報告

公園登録ボランティア等と協働で、公園緑地内の植物や生物の調査を実施し、結果を公表するなどして、市民への啓発を図った。

(4) 魚類等水生生物の調査・研究

札幌市内の河川等において、水生生物の生息状況やサケの産卵状況の把握、及び水辺環境の保全等を目的とした調査を実施し、結果を公表した。

2 公園緑地及び自然環境等に関する施設の管理運営

公園施設等において、安心・安全・快適な利用環境の確保、質の高いサービスの提供など、適正な管理運営により魅力を高めることで利用の促進に努めた。また、緑化相談や園芸講習会など、都市緑化を推進・サポートする専門性の高い事業を実施した。

(1) 安全及びホスピタリティの充実

見どころやイベント、園芸情報などについて、リーフレットやチラシ・ポスター、ホームページ、札幌市広報、マスメディアへの情報提供など、様々な手段で発信・提供した。特に、公園施設のイベント・展示会・講習会等の開催情報をまとめて紹介する「さっぽろ公園だより」を定期的に発行して広く配布・公開した。また、緑豊かで美しい公園景観の魅力を広く伝えるため、計12公園で「ガーデンアイランド北海道2019」に登録し、北海道における花と緑のネットワークづくりに貢献した。このほか、FacebookやTwitterなどの情報共有ツールを活用して情報発信の効果を高め、誘客につなげた。

1月以降の新型コロナウイルス感染の対応については、各公園・施設で随時札幌市と連携を取り、利用者の感染予防対策を行い利用者が公園の状況を適切に理解し利用するよう努めた。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの公開、AEDの配置のほか、スタッフの救命講習受講、緊急時対応訓練の実施、接遇検定の受検等により、ホスピタリティの一層の充実に努めた。

また、誰もが安心して公園施設を楽しむことができるよう、バリアフリー化・ユニバーサルデザイン化、ハザードマップの公開、AEDの配置のほか、スタッフの救命講習受講、緊急時対応訓練の実施、接遇検定の受検等により、ホスピタリティの一層の充実に努めた。

(2) 開かれた公園管理の推進

市民参加・協働による開かれた管理運営を推進するため、花壇の維持管理やイベントの企画・運営等について、ボランティアや地域住民、関係諸団体等と積極的に連携を図った。

また、公園施設利用の活性化、市民の活動の場や生きがいの創出、公園を中心とした地域コミュニティ活性化などを目的として、公園施設の利活用協議会等を設置するとともに、利用者アンケート等により市民の声を管理の改善に役立て、より魅力的な公園づくりを進めた。

(3) 都市環境の保全及び改善

HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、構築した EMS に基づき、公園施設等におけるエネルギー使用量の削減や資源の有効活用、生物多様性保全など、環境に配慮した取組に努めた。特に公園緑地の維持管理において、発生した剪定枝や刈草等をチップ化・堆肥化したほか、各種工作教室等の素材として再利用するなどした。

また、市民参加・協働により公園内の生物多様性の保全と普及啓発を図るため、外来生物の駆除イベントや身近な野生動物に関する勉強会等の環境教育プログラムを企画・実施した。このほか、札幌市の生物多様性活動拠点に登録している 4 施設では、連携事業であるクイズラリーやバスツアーに参加協力したほか、生物多様性に関する展示やイベント、情報発信を行った。

(4) 体験学習プログラム等の実施

自然、生物、歴史など、公園施設の魅力の発信と、身近な環境や緑化の大切さ、公園緑地に対する愛着の醸成を図るため、各種観察会や体験講座等を開催した。また、学校教育への協力の一環として、職場体験や博物館実習等を受け入れ、公園施設管理という仕事への理解を深めた。

(5) 公園施設の特性を生かした展示会及びイベント等の開催

園芸植物、自然、文化などの資源を生かした各種展示会やイベントを開催したほか、愛犬家のマナー向上を目的として、「愛犬といっしょの公園散歩講座」の開催や、札幌市による「リードをつないで楽しくお散歩キャンペーン」に計 15 公園が参加協力した。

(6) 植物及び自然等に関する知識・技術の普及

緑化園芸技術・知識の向上、自然等に関する普及啓発を図るため、各種園芸講習会や生物の飼育展示の企画・開催、専門スタッフによる緑の相談を実施した。また、外部からの要請に応じて、花や緑、生物、自然等に関する講座や講習等に職員を講師として派遣した。

(7) 北国札幌の気候風土に適した植物管理

札幌の気候風土に適した植物を管理し、管理手法も含めた提案を行い、啓発を図った。また公園樹の健全な育成を図るため、樹木管理計画に基づいて適正な管理に努めたほか、稀少植物の保護やその啓発に取り組んだ。

特に、百合が原公園のユリ、川下公園のライラック、平岡公園のウメなど、テーマ植物を有する公園においては、海外を含めた外部との連携や、高度な知識・経験・技術に基づいた品種の導入・育成・管理等を進め、公園の価値と魅力をいっそう高めることに努めた。

3 公園緑地等におけるスポーツ・余暇活動及び健康の維持増進に関する事業

公園緑地を市民の健康増進の場として位置付け、運動教室や初心者講習会、競技大会などを企画・実施し、利用促進を図った。また、プレーパーク等の外遊び企画を実施した。

(1) 健康づくり及び体力の増進

公園緑地や園内施設が市民の健康維持と体力増進の場となるよう、環境整備を適切に行うとともに、ノルディックウォーキングや歩くスキー等の講習会や、子ども向けのかげっこ教室、各種の運動教室等を企画・開催し、市民の健康づくりを推進した。

(2) プレーパーク等、外遊びの推進

子どもたちの心身の健全な発達と自由な外遊びの場づくりのため、地域や関係団体のほか、札幌市子ども未来局と連携してプレーパーク事業の推進・普及に努めた。また、外あそびに関する当協会のプロジェクトによる取組として、公園あそびを推進するための各種体験講座等を開催した。

(3) スポーツを通じた交流及び競技力の向上

スポーツを通じて市民の交流推進と競技レベルの向上を図るため、パークゴルフ交流大会など、各種の大会、講習会等を企画・開催した。

また、厚別公園では(一社)A-Bank北海道との連携事業として、小中学生を対象とした陸上クラブ・サッカークラブを運営した。このほか、農試公園ではサッカースクール、かけっこスクールを開講した。

各公園施設における取組

大通公園・創成川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

ボランティアや市民と協働でイベント開催や公園ガイドによる情報発信に努め、また季節毎に北国の魅力・特性を活かした植物管理を行い、近隣の商店街・地域住民と連携したにぎわいづくり、歴史的・文化的財産の共有、まちなかのみどりのオアシスとして質の向上に努めるなど、公園の魅力を十分に発揮し、来園者にやすらぎと活気が感じられる公園の管理運営に努めた。

(1) 市民や観光客への情報発信と「おもてなし」

自主事業として「大通公園インフォメーションセンター＆オフィシャルショップ」(以下、インフォメーションセンター)を運営し、年間約 10,100 人の利用があった。札幌の観光案内や公園の魅力など様々な情報をタイムリーに提供することで、利用者の満足度とリピート率の向上を目指した。また、「西 3 丁目カフェテラス」及び「とうきびワゴン」の運営を行い、利益の向上と利用者の利便性を図ることができたが、3 月の 1 か月間は新型コロナウイルス感染症対策として、インフォメーションセンターは臨時休業となった。

ホームページでは、開催イベント情報やタイムリーな開花情報のほか、ボランティアによる公園愛護活動の様子を随時発信し、市民協働による公園管理を広め、参加意欲の向上につなげることができた。

大通公園ガイドボランティアによる「公園ガイド」は、公園の歴史・樹木や彫像を解説し、札幌や公園の文化的財産を共有することにより、市民の愛着心の醸成と観光客へのおもてなしに努めた。また冬期間、観光客等で賑わうさっぽろ雪まつりでも期間中毎日ガイドを行い、四季を通じて公園と札幌の魅力の発信に努めた。

(2) 体験型利用の促進

大通公園は、大型イベント会場として賑わうほか、竹馬や自然素材を使ったクラフト、子どものボランティア活動としてバラの花がら摘み体験など、体験型による利用促進に努めた。また札幌市と共催で、大型イベントによる賑わいと対照的に、設置物を極力無くし公園の魅力的な空間を楽しむ 2 日間「プレミアムウィークエンド」を実施、利用者アンケートを行い利用促進の方向性を探るとともに、ロープを使って木に登るツリーイング体験やとうきびの焼き体験もできるガイドツアーなどを実施した。創成川公園でも、七夕会でのささ舟づくり、ハロウィンのランタンづくりと木育によるクラフト、スノーキャンドルづくりなどの体験型イベントを実施、市民だけではなく、「コト消費」を求める海外観光客等の参加につなげた。なお、3 月開催予定の創成川公園まちなかの灯りⅡは、新型コロナウイルス感染症対策として中止となった。

■自主事業による開催イベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①どんぐりクラフト	2 日 131 人	①公園まるわかりガイドツアー	17 日 156 人
②竹馬無料貸出	194 日 645 人	②ライラック写真募集	28 日 14 人
③プレミアムウィークエンド	2 日 86 人	③七夕会	1 日 100 人
④バラフェスタ	2 日 100 人	④4 公園ワンデーマーチ(共通)	1 日 35 人
⑤たねダンゴ	1 日 6 人	⑤ハロウィン	1 日 200 人
⑥子どもバラボランティア体験	6 日 6 人	⑥まち灯り スノーキャンドルづくり	1 日 200 人
⑦4 公園ワンデーマーチ(共通)	1 日 35 人		
⑧防災プレーパーク	1 日 158 人		

2 市民参加・協働等

市民ボランティアに対して、用具の提供・指導など活動支援を行い、年間を通じて市民協働の推進に努めた。

近隣地域との連携では、「大通公園・創成川公園利活用協議会」を開催し、近隣の町内会、学校、施設等に公園運営への理解を深めていただき、指定管理者と地域の相互協力体制、情報交換などを行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

(1) ボランティア活動の支援

企業・団体の清掃ボランティア活動に対する用具等の貸出し、ベンチ塗装プロジェクトのボランティアへの人的支援など、それぞれの活動内容に合わせて適切なサポートを行った。両公園の登録ボランティアには、自発的な活動を重視するとともに、専門家の技術指導によるスキルアップ、必要物品の支給等、またユニフォームの貸与等で活動の連帯感やモチベーションの向上を図った。

(2) 地域団体との連携

大通公園では、前年度に引き続き地域住民主体の「大通地区にぎわいフェスタ」の実行委員としてイベントに参加、ガイドボランティアも参加し、地域との協力・連携を図った。「公園の遊具を塗ろう」では、塗料・塗装業者で結成された「北海道昭和会」と連携し協力を得て、地域の子どもたちが遊具塗装体験を行った。

創成川公園では、狸二条広場の活用について、狸二条広場運営協議会と連携を図り、月に1度の会議出席、イベントの共同開催、公園の防犯パトロールなどを実施した。また、商工会議所青年部の主催する「キャンドルストリーム」と連携し、創成橋のライトアップなど公園の魅力アップを図った。

(3) 教育機関との協働

近隣小学校との連携として、児童による花壇への花苗の植込みのほか、植物管理などのボランティア体験を行った。さらに、近隣の小学校の職業体験の受け入れ、授業での児童の公園調査への協力と作成物の展示などを行い、子どもの公園利用や参加・協働を促進し、公園への愛着心の醸成を図った。

(4) 近隣施設との連携

さっぽろテレビ塔及び札幌市資料館と協力体制を取り、円滑なボランティア活動やイベントチラシ配布など、相互に市民活動と広報効果を高めた。大通地区にぎわいフェスタでは、大通公園ボランティアと資料館ボランティアが協働でガイドを行い、連携を深めた。

■NPO・ボランティア・団体との連携による開催イベント一覧

大通公園	日数・参加者数	創成川公園	日数・参加者数
①大通地区にぎわいフェスタ (実行委員会参加)	2日 -	①ベンチ塗装プロジェクト	1日 30人
②大通公園の遊具をみんなで塗ろう	1日 48人	②サンキューフェスティバル(共催)	3日 -
③フェアトレードフェスタ2019 in さっぽろ	2日 500人	③創成川キャンドルストリーム &イルミネーション(後援)	
④雪まつりガイド(ボランティア)	8日 67人		

■ボランティア活動一覧

	団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
大通公園	①花壇維持管理ボランティア	86日 延べ287人	花壇の維持管理
	②花壇ボランティア(NPO シーズネット)	19日 延べ205人	花壇の維持管理
	③バラ管理ボランティア	45日 延べ630人	バラの管理
	④ガイドボランティア	196日 延べ1,015人	おもてなしガイドとして公園を案内
	⑤花壇ボランティア	3日 延べ140人	花苗の植え込み(春・夏・秋)
	⑥中央小学校(3・4年生)	1日 延べ106人	花苗の植え込み(夏花壇)
創成川公園	①植物ボランティア	33日 延べ287人	ライラック等の植物管理
	②お助け隊	35日 延べ218人	清掃、除草、イベント運営など
	③花くらぶ	15日 延べ83人	コンテナ花壇の管理

中島公園・豊平川緑地(上流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

市街地に隣接しながらも水や緑が豊かで野鳥などの動物が見られる。また、札幌の歴史的建造物や文化施設もあり、さらには文化的イベントが今も開催されている公園の魅力と特性を活用するとともに、地域団体や企業、関連団体、教育機関との協力・連携を密に図りながら、季節に適した様々なイベントを企画し、実施した。

冬季イベント「ゆきあかり in 中島公園」では、さっぽろ雪まつり実行委員会からの協賛金により、今後の雪像制作物の拡充と安定したイベント運営を図ることが可能となった。また、英語表記のイベントチラシを作成することも出来、インバウンド対応も図られ、一層の利用促進とサービス向上につながった。

(1) 市民にわかりやすく楽しい情報提供

当公園・緑地の公式ウェブサイトを活用し、年間を通じた景観の魅力やタイムリーな公園情報を発信することで公園をPRし、新規の公園利用者誘致、リピーターの再訪を促した。

公園で作成している園内樹木マップを継続配布するとともに、札幌ライオンズクラブの協力で樹名板を設置するなど、園内散策のアイテムによるサービス向上と利用促進に努めた。

(2) 「都心のオアシス」として公園の魅力アップ

都心部における貴重な親水空間である菖蒲池と鴨々川を有する園内において、良好な景観を楽しんでいただけるよう、ライラックやアジサイといった季節を彩る花木類の管理に配慮し、市民が休息や写真撮影などで利用される場としての環境整備を心掛けた。また、「野鳥観察会」や「みどころ探訪ツアー」といった自然イベントを開催し、都会では貴重な生き物との触れあえる企画を提供することで公園の魅力アップにつなげた。

(3) 歴史ある無形資産の維持・継承への協力体制の確保

「さっぽろ園芸市」、「札幌まつり」、「歳の市」など、長期にわたり中島公園を会場として親しまれてきた催し物の維持・継承を図るため、公園内及び周辺の歴史・文化・スポーツ施設や公園内外で活動する市民団体、企業、教育機関などや催事の主催、関係団体との相互協力・支援体制を整えるとともに、会場となる公園内の清掃や除雪、施設の安全性確保を行うことで安定した開催に努め、札幌の文化・歴史を担う無形資産の継承と中島公園のイメージ向上に努めた。

■ 自主事業による開催イベント一覧

中島公園		豊平川緑地(上流地区)	
イベント名	参加人数	イベント名	参加人数
① なかじま桜まつり	200 人	⑩ 豊平川緑地パークゴルフ交流大会	51 人
② 中島 Kids ガーデン	延べ 264 人	⑪ ラストコールパークゴルフ大会	114 人
③ 鴨ノス茶会・野点	236 人		
④ 4 公園ワンデーマーチ	35 人		
⑤ みどころ探訪ツアー	12 人		
⑥ キャンドルナイト	25 人		
⑦ 野鳥観察会	16 人		
⑧ 冬のまちにスノーキャンドルをともしよう！	約 100 人		
⑨ 第 14 回ゆきあかり in 中島公園	約 3,100 人		

2 市民協働・地域との連携

地域との連携を図るためコミュニティ推進協議会を継続し、本年度は「札幌まつり」「ゆきあかり」等のイベントにおいてメーリングリストによる相互の情報交換を行い、利用者のニーズを共有する場として活用した。

コミュニティ推進協議会メンバーである中島児童会館とは、協働で地域の市民や子ども主体のイベント「かもくま祭り」を開催し、輪投げやどんぐりチャームづくりなど子どものニーズに合わせたコーナーを出店するとともに、地域住民や他の参加団体と共に中島公園の利用促進と地域振興に努めた。

豊平川緑地では、パークゴルフ場(南7条コース・南大橋コース)の運営を中央区パークゴルフ協会に委託することで、新規利用者へのルール説明やマナー啓発、利用者ニーズの把握、コース管理に係るアドバイスなど、サービス向上と利用促進に努めた。

(1) ボランティア活動の支援・協働

公園内花壇や花木の管理を市民ボランティアと協働で行い、園内花壇の充実化や、雑草の繁茂が目立つ箇所を再生・植栽し、公園のフローラルアップを図った。

清掃ボランティアなどの各協力団体の活動を支援することで市民協働・連携を図った。

(2) 近隣教育機関との連携

公園近隣の小中学校における総合学習や職業体験を積極的に受け入れ、清掃や除草作業など経験してもらうことで、緑や公園について興味や愛着心の醸成を図った。

冬季イベント「第14回 ゆきあかり in 中島公園」では、近隣の小中高校よりボランティアを集い、会場設営や点灯式などの運営を協働で実施した。

(3) 市民活動・地域連携による相互の充実

公園内及び近隣施設・団体で構成される「ゆきあかり実行委員会」において、各団体の協力と紹介を会場内にて行い、活動内容の周知を行った。また、「札幌まつり」などの大規模イベントにおいては逐一情報を周知し、緊急事の連絡体制を確認するなど連携の強化を図った。

■協議会・教育機関・ボランティア団体等との連携による開催イベント・事業一覧

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
フローレスの会	33日 延べ180人	旧百花園の花壇・バラ管理等
中島 Kids ガーデン	18日 延べ264人	地域の親子参加による野菜等育成体験学習
中島中学校にて講演会	1日 職員1名	中島公園の歴史について講演
中島中学校職場体験	2日 延べ4人	花壇管理、清掃補助等
第13回かもくま祭	1日 448人	児童会館との協働子どもイベント
鴨々川いきもの観察会(札幌市共催)	2日 延べ38人	川の生物や自然に親しむ子どもイベント
中島中学校総合学習	1日 50人	ロウソク加工、冬期イベント「ゆきあかり」補助
山鼻小学校総合学習	1日 90人	冬期イベント「ゆきあかり」補助
静修高校社会実習	1日 15人	冬期イベント「ゆきあかり」補助
第14回ゆきあかり in 中島公園	3日 延べ3,100人	中島公園地域連携による冬の風物詩イベント

3 利用料金収入

豊平川緑地パークゴルフ場では雪解けが早かったため、開放作業を早期に取りかかり、開放後は定期的な草刈、施肥、灌水等の作業、雨天時のコース内排水作業を行うことでコースコンディションを維持し、利用者のニーズに対応した。

南22条野球場においても、雪堆積場の原状復旧立会後、直ちにグラウンド整備を実施し開放した。定期的な草刈作業など確実に実施し良好なグラウンドコンディション維持に努めた。

南22条無料パークゴルフ場において、9月の改修工事終了後、芝刈り作業等コースのコンディション維持に努めた。

利用料金収入合計 9,265,900円 (パークゴルフ場南7条コース・南大橋コース及び南22条野球場)

円山公園

1 普及啓発・利用促進事業等

多種多様な樹木を有する公園の特徴を生かして、木の実や剪定枝等の植物廃材を活用した「ナチュラルリースづくり」「あけびのかごづくり」「もくもく工房」を昨年度に引き続き開催した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、「苔玉づくり」が開催中止となった。

近隣地域の子どもの主な対象とした「こども夏まつり」や札幌市経済観光局農政部農業支援センターとの共催で野菜の収穫期に「円山公園マルシェ」を開催し、冬期には「スノーラフティングチューブ」「スノーキャンドル」「スノーマウンテン造成」を開催しており、公園の利用促進及び活性化を図った。

スポーツイベントとして、これまでに開催してきた「かけっこ教室」「ノルディックウォーキング講習会」のほか、新たに「青空ヨガ教室」「健幸体操教室」を開催しており、今後も継続して開催していきたい。

円山公園の豊かな自然環境や歴史などをテーマとしたガイドツアーとして「円山公園探訪ツアー」を定期的に開催し、好評を得た。

園内ではリスや野鳥などの野生動物への過度な餌付けの影響が懸念されており、この問題への関心・意識の啓発につなげていくことを目的として、専門家や研究者らとともに、野生動物との付き合い方を考える「円山リスの会」を平成 27 年に発足し、市民参加による勉強会として「まるやま野生動物カフェ」を継続的に開催しており、公園の取り組みの周知を図っている。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①かけっこ教室(2回)	38人	⑩円山・大通・創成川・中島公園 4公園ワンデーマーチ	35人
②ちよこっとプレーパークin円山公園(15回)	1,631人	⑪まるやま野生動物カフェ	15人
③あけびのかごづくり(2回)	19人	⑫公園あそびらぼ	16人
④ノルディックウォーキング講習会	3人	⑬ナチュラルリースづくり	56人
⑤円山公園探訪ツアー(3回)	45人	⑭もくもく工房(6回)	40人
⑥円山公園マルシェ(5回)	1,411人	⑮スノーマウンテン造成及びチューブそり無料貸出	-
⑦円山公園こども夏まつり 2019	1,094人	⑯冬の円山公園にスノーキャンドルのあかりを灯そう！2020	-
⑧青空ヨガ教室	13人	⑰まるやまスノーラフティングチューブ(8回)	375人
⑨健幸体操教室	12人		

2 市民参加・協働等

さっぽろ冒険遊びの会との共催で、年間を通じてプレーパーク事業「ちよこっとプレーパークin円山公園」を開催し、子どもが自由にのびのびと外遊びできる場を提供した。

在来植物の保護と外来植物の対策として、外来種除去活動を継続して実施した結果、特定外来生物であるオオハングソンソウは神宮下園地や円山下園地ではほとんど見られなくなった。また、ゴボウ・イワミツバについても、北海道自然保護協会と連携して精力的な除去活動を行い、成果を挙げている。

3 利用料金収入

坂下野球場は計画数よりも高頻度で芝刈、グラウンド整備を実施し、良好なグラウンド状態の維持に努めた。自由広場は幼稚園や保育園の運動会や運動会練習での利用が大半を占め、グラウンド状況に応じて、適時、グラウンド整備を実施し、グラウンド状態の改善に努めることで、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 695,210 円(坂下野球場、自由広場)

百合が原公園

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市のフラワーパークとして、ユリをはじめ、チューリップ、ムスカリ、ライラック、バラ、ダリアなどによる公園景観の提供に努めた。

今年度のGWは10連休となり、多くの来園者が訪れ、公園内は大変賑わい収入も増加した。また、緑のセンター温室での植物展示会・講習会は年間 94 回の開催となり好評であった。イベント開催に当たり、広報専任担当者を配置し的確な情報発信を行い集客につなげた。

このほか、公園を題材としたクイズを出題するオリエンテーリングや、ガイドボランティアが対応するお散歩ガイド、職員が見どころを案内する紅葉ツアーを開催し、好評であった。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月は緑のセンターが臨時休館となり、春の洋ラン展等のイベントを中止とした。

■自主事業による展示会・講習会・イベント一覧

イベント名	観覧・参加者数	イベント名	観覧・参加者数
①展示会・講習会	74,209 人	⑥ぽっぴーフェスティバル	2,300 人
②公園ツアー	2 人	⑦スノーキャンドル	106 人
③プレーパーク	200 人	⑧クリーンアップ	9 人
④オリエンテーリング	234 人	⑨ボランティア説明会	4 人
⑤お散歩ガイド	137 人		

2 市民参加・協働等

(1) ボランティア活動の支援

専属のボランティアコーディネーターを配置し、4 つのボランティアグループ、計 43 名の活動を支援して、公園の魅力アップにつなげた。

- ・温室管理ボランティア「ミモザ」 12 人
 - ・バラ管理ボランティア「ローズヒップ」 9 人
 - ・宿根草管理ボランティア「クローバー」 8 人
 - ・公園ガイドボランティア「ガイド」 14 人
- 全体 183 日 延べ 927 人

(2) 体験学習、実習等の受け入れ

札幌市内の小中学校や近郊の高校などから、環境学習や職業体験、インターンシップを受け入れ、公園や植物との関わりを実習等により体験し、緑化事業への魅力発信に努めた。

- ・百合が原小学校オリエンテーリング受け入れ 550 人
- ・百合が原小学校 3 年生総合学習受け入れ 81 人
- ・北辰中、開成中、太平中、あいの里東中学校の職業体験 18 人
- ・当別高校園芸科インターンシップ 3 人

(3) 生物多様性の普及・啓発

生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業である生き物クイズラリーに参加した。また、バスツアー 40 名を受け入れ、温室、世界の庭園を案内し取り組みの説明をした。

3 緑の相談

市民園芸の普及、支援のため、緑のセンターで冬期を除く週 2 回（木曜、日曜）、緑の相談業務を行った。相談件数は 1,933 件だった。

4 利用料金収入

園内開花情報やイベント、温室の展示会等の広報発信をマスコミ中心に的確に行った結果、多くの来館者を呼び込んだ。

利用料金収入合計 13,301,270 円(前年比 121% 緑のセンター温室、世界の庭園、リートレイン)

モエレ沼公園

1 普及啓発・利用促進事業等

これまで進めてきたイサム・ノグチ作品としてのクオリティの維持・向上、魅力ある公園づくりと情報発信力を活かし、公園の価値向上ならびに安全で快適な公園利用に向けてさまざまな事業を展開した(年間入園者数 878,761 人)。

(1) 市民や観光客にとって魅力ある公園づくりと情報発信

1) 快適で賑わいある公園利用、イサム・ノグチ作品としてのポテンシャルを生かした持込イベントへの対応

園内で開催される多様な大規模イベントに協力し、公園に賑わいをもたらすとともに、イサム・ノグチ作品としての知名度を高めた。

特に、今回で 7 回目となる「モエレ沼芸術花火 2019」(主催:モエレ沼芸術花火実行委員会)は、過去最高となる来場者数約 2.6 万人(前回比約 0.2 万人増)を記録し、広域誘客イベントとして定着した。

また、施設等の管理では、安全管理、事故防止を第一としながら、各種イベントへの柔軟な対応・協力を行い、魅力ある公園づくりに努めた。

2) 国内外への魅力発信と誘客

利用者の情報入手媒体として重要である公式ウェブサイトのほか、Facebook や Twitter などによる効果的な情報発信に取り組んだ。また、園内のサクラや各種イベントへの取材のほか、旅行雑誌や海外メディアによる動画撮影、北海道のアートスポット紹介のテキスト執筆などさまざまな取材に対応して、国内のみならず海外からの誘客にも努めたほか、幅広い年齢層への情報発信にも留意し、一層の認知度向上に取り組んだ。

3) 多くの市民が質の高いアートに触れ合える機会の提供

市民が気軽にアートに触れ合える観覧無料の展覧会のほか、ガラスのピラミッドのユニークな空間を活用して、アマチュアやプロによるコンサートを開催した。その他、恒例となっているクリスマスコンサートイベントや、冬の展覧会など、多くの来場者を集めることができ、利用促進及び公園の価値向上につながった。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	観覧・参加者数	イベント名	観覧・参加者数
①モエレの1年展	9,579 人	④モエレのホワイトクリスマス 2019 (コンサート、ワークショップ等)	491 人
②展覧会「進藤冬華 移住の子」	6,918 人	⑤冬のまちにスノーキャンドルの灯りを ともそう! 2019	180 人
③さと・モエ合同ウォーキング 2019	227 人	⑥所蔵品展 イサム・ノグチあかり展	2,158 人

(2) 他団体と連携した誘客活動

隣接するサッポロさとらんどとの共催によるウォーキングイベント「さと・モエ合同ウォーキング 2019」(参加者 227 人)を開催し、相互連携による誘客強化を図った。また、北海道内各地の美術館等施設が参加する「アートギャラリー北海道」に加入し、相互の連携により、多様な鑑賞機会の提供や魅力あるイベント、効果的なPR活動などの取り組みに努めた。

2 市民参加・協働等

市民が公園を活動の場として気軽に利用できるよう、NPO やボランティア団体と協働でイベントを開催したほか、サクラの育成や栽培などフィールドを活用した活動を支援した。

また、周辺町内会や NPO、ボランティア団体をメンバーとした「モエレ沼公園利活用協議会」を開催し、公園の利用状況のほか、各種事業への取組とその成果等を報告して公園運営に対する理解を深めていただくとともに、出席者から多様な意見を拝聴して意見交換を行った。

■NPO・ボランティア団体による開催イベント一覧

団体名	活動日数、一般参加者数 (カッコ内は活動延べ人数)	活動内容
モイレ HIDAMARI	39 日、572 人(271 人)	春のクラフト、サクラツアー、ミニ盆栽づくり、木の葉でたたき染め、モエレクラフト、樹林地観察会等
NPO モエレ沼公園の活用を考える会	2 日、100 人	モエレ冬のコンサート、ギャラリートーク 2019

3 冬期間における公園活用の促進

冬の公園利用促進のため、日常生活や週末レジャーを楽しむ場として、クロスカントリースキーや冬の散歩コース、ソリ滑り場を設置したほか、歩くスキーやスノーシュー、ソリなど、ウィンタースポーツ用品の貸出しを行った。特に、散歩コースは整備距離を延長して、利用者の要望に応えた。

また、今年度で 10 回目となる「モエレ山爆走そり大会」を開催した。実行委員会(事務局:東区地域振興課)の一員として円滑な運営に協力し、募集定員 80 組に対し 77 組/約 310 名の参加を得て、事故・怪我等なく無事終了した。

4 利用料金収入

テニスコートでは、団体の大会利用に合わせて、フィールドハウスやテニスコートの開閉場時間を柔軟に変更して運営に協力し、施設利用の促進を図った。また、日常管理では、老朽化に伴うコンディションの悪化を防ぎながらこまめな整備を行い、施設利用の快適性を維持した。

ガラスのピラミッドの貸室では、利用者の多岐にわたる要望に細やかな対応を心掛け、事前の調整を綿密に行ったほか、他の利用者への案内や調整により円滑な施設利用に努めた。

利用料金収入合計 20,330,408 円

(テニスコート、陸上競技場、野球場、コインシャワー、レンタサイクル、野外ステージ、ガラスのピラミッド)

川下公園・北郷公園・豊平川緑地(下流地区)

1 普及啓発・利用促進事業等

川下公園の設立目的でもある、「ライラックの普及啓発」と「健康増進」を2本の柱に利用促進事業を実施し、魅力溢れる公園の管理運営に取り組んだ。

(1) 公園の特色を生かした公園づくりと普及啓発活動

1) ライラックを生かした公園づくりや情報発信

「第61回さっぽろライラックまつり」では、メイン会場である大通会場において、ライラックの苗木販売、川下公園の広報活動、ライラックの相談会を実施した。

川下会場では、ライラックの苗木無料配布や市民参加型のステージイベントや学生によるライラックのネイルアート無料体験など実施するほか、ライラックのガイドツアーやクイズラリーなど、札幌市の木であるライラックを身近に感じられる事業を開催した。

また、ライラックまつり内の新規イベントで珍しい鉢植えライラックの展示スペースを設けるなど、普段市民が接することができない催しも併せて実施した。(期間中来園者数約7,600人)

2) 健康増進施設としての活動

温水プールや浴室を備えた全天候型屋内施設リラックスプラザを有する川下公園では、各施設の有効活用や市民の健康増進を目的として、利用促進事業やサービス向上事業を実施した。

以前より、開催していた「水中健康教室」のほか、5月から「骨盤矯正ダイエットヨガ教室」6月から「川下公園フリースタイルダンス教室・Lilaダンススタジオ」を新たに実施し、水中健康教室・ヨガ教室では年配者を中心にダンス教室では小学生を中心に多くの方に参加して頂き、好評を得ている。

川下公園・北郷公園両パークゴルフ場では、大会を開催し多くの参加者が交流を深めた。

また、川下公園パークゴルフ場では、利用者からの要望を受け、導入した新券種のうち一日券が好評で利用者増となっている。浴室やリラックスプラザ内レストランのリピーター促進・利用促進を図るため、各施設の利用毎にポイントを貯め、累積ポイントによりサービスを受けられる「Kポイントカード」や、ファミリー層の利用促進を目的としての「浴室家族割」も引き続き継続し、利用者サービスを行っている。

3) 季節に応じた事業の促進

札幌の初夏を彩るライラックの普及・啓発と利用促進を目的とした「さっぽろライラックまつり in 川下公園」は、2日間で約7,600人の来園者を迎え、本イベントの開催を通じて札幌の市木であるライラックの魅力を広く発信することができた。

また、昨年に引き続き白石区民まつり「白石区ふるさとまつり」を札幌市と共催で実施した。子どもからお年寄りまで幅広く、昨年を上回る約32,500人の来園者で賑わった。

さらに、川下公園リラックスプラザのオープン20周年を記念した「川下公園秋まつり」には、2日間で2,700人の来園者を迎え、スポーツの秋にふさわしく、川下公園野球場を活用したイベントや、子どもからお年寄りまで楽しめる縁日やワークショップ、クイズ&ウォークラリーなどを企画し、好評を得た。

冬季に開催した「ウィンターフェスティバル」では、暖冬による雪不足のため、屋外でのイベントが全て中止となる中、リラックスプラザ館内での凧づくりやスノードームづくりなどのワークショップに足を運んでいただいた方を含め、194人の参加があった。例年好評の「スノーラフティング」の中止を残念がる声も多くいただき、同月の毎週日曜日に予定していた同イベントも可能な限り開催を検討していたが、1回のみの開催となった。しかしながら、41人と多くの参加者があり、冬季ならではの魅力ある催しを提供できた。

また、冬期の歩くスキーやウォーキングによる屋外活動を促すため、歩行距離に応じてスタンプを押印し100マイル達成を目指していただく「川下100マイルチャレンジ」を、年間を通して実施し、健康増進意欲の高揚に繋がる事業を行った。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
① 水中健康教室	1,117 人	⑥川下公園秋まつり	2,700 人
② さっぽろライラックまつり in 川下公園	7,600 人	⑦ネイチャークラフト講座	76 人
③ ライラックガイドツアー	65 人	⑧川下公園ウィンターフェスティバル	194 人
④ 白石区ふるさとまつり(共催)	32,500 人	⑨サンデーラフティングボート	41 人
⑤パークゴルフ大会(川下公園PG場)	52 人	⑩パークゴルフ大会(北郷公園PG場)	115 人

2 市民参加・協働等

(1)市民参加のボランティア活動

ライラックの花がら摘みを「川下公園ライラックボランティア りらら」の活動として実施し、知識・技術の習得と向上に取り組んだ。

(2)市民協働の活動

近隣中学校の校外学習の場として、「白石区でっち奉公」を実施し、6 校 33 人の中学生が職業体験を通じて公園管理や緑化事業への関心を深めることに努めた。

また、近隣の川北小学校から総合学習協力を依頼があり、川下公園職員から園内の動植物を通じ環境教育に関わる授業を行った。

このほか、北東白石地区青少年育成委員会による「雪あそびフェスティバル」においてテントの貸出し、雪山作り、雪上ラフティングボートの実施など、近隣の子どもの健全な成長に公園として最大限の支援を行ったほか、白石区と地域パートナーシップ協定を締結している「白石区ふるさと会」の活動の一環として、「白石区まち美化プログラム」に参加し、春に白石サイクリングロードの清掃奉仕活動を実施した。

近隣町内会や教育機関等の関係者と公園管理や活用方法について話し合うため、川下公園利活用協議会を3月2日(月)に開催予定していたが、コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。

3 ライラックの継続的な品種管理

市民参加の「川下公園ライラックボランティア りらら」において、次年度以降にライラックまつりで無料配布予定のライラックの挿し木を 1000 ポット分先行い、ボランティア活動において、参加した市民がやりがいを感じるような活動スケジュールを組み、市民も普及啓発を行えるような環境作りも積極的構築した。

また、近隣の札幌市立川北小学校の総合的な学習の事業においては、ライラックが札幌市の木に選ばれた理由やライラックの特徴など生徒にわかりやすく説明するなど、地域に根付いた活動も行っている。

4 利用料金収入

札幌市と協議して屋外施設の開放期間を早め、有料施設の利用促進を図った。

利用料金収入合計 16,508,895 円

(川下公園野球場・テニスコート・パークゴルフ場、北郷公園野球場、豊平川緑地下流地区サッカー場)

豊平公園

1 普及啓発・利用促進事業等

地下鉄駅出入口に隣接した場所に緑のセンターが移転し、来館者の利便性が向上したため、今年度の緑のセンター来館者は127,328人となり、昨年度の来館者より約7%の増となった。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月は緑のセンターが臨時休館となり、ボタニカルアート展等のイベントを中止とした。

(1) 市民緑化の推進を目的としたバラエティに富んだ展示会・講習会の開催

札幌市で最も古い緑のセンター(昭和54年3月開所)として、開所当時から様々な展示会を企画・運営し、今年度も流行の植物から古典園芸、植物を題材とした絵画、クラフト作品まで幅広い展示会を開催した。展示会の多くは、市内や道内で活動する植物同好会やクラフトサークルの会員の発表の場としても活用され、市民園芸文化の普及において重要な役割を果たすとともに、各団体の活動の周知と活性化に協力した。

また、園芸技術、知識、文化の普及を目的とした、合計56回の園芸教室・講座、自然教室、クラフト講習会を開催した。(参加者数676人)

- ・展示会(野菜、盆栽、菊花、洋ラン展等) 32回 219日 入館者93,762人
- ・園芸教室(家庭菜園、鉢花栽培、冬囲い、病虫害防除、果樹剪定等) 25回 312人
- ・園芸講座(バラづくり、宿根草、盆栽) 8回 123人
- ・自然教室(自然観察会) 3回 33人
- ・クラフト講習会(あけびクラフト、レカンフラワー、クリスマスリース、ボタニカルアート等) 18回 152人
- ・コチョウラン植え替えサービス 2回 56人

(2) 市民、他施設との共同イベント開催

近隣施設、団体等と共催イベントを開催するなど、公園を市民コミュニティの場として活用するよう努めた。

- ・生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業の生き物クイズラリーに参加
- ・冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう! 2020

(3) 緑化情報「緑のセンターだより」の発行

季節の植物や栽培方法などの情報を掲載した「緑のセンターだより」を毎月編集・発行し、約13,000部を札幌市各区役所、近隣まちづくりセンター・公共施設、各公園に無料配布し、公式ウェブサイトでも公開した。

紙面をカラー化したことで、旬の開花情報や写真、イベント案内などが見やすいと好評を得ている。

2 市民参加・協働等

市民による緑化活動の活性化やイベントの充実化を目的として、ボランティア団体と公園の花壇や緑地の管理、イベント準備・運営等を協働で行った。

- ・豊平公園花とハーブの会 21日 延べ257人

花壇、植栽管理、ハーブ展運営、クリスマス展示物製作、イベント準備

3 緑の相談

市民園芸の普及、支援のため、緑のセンターで、休館日を除く毎日、緑の相談を行った。相談件数は、18,611件だった。

4 利用料金収入

利用料金収入合計 1,873,770円(テニスコート、講義室)

平岡公園・清田南公園

1 普及啓発・利用促進事業等(平岡公園)

梅林の健全な育成と景観の維持・向上のため、積雪寒冷地でのウメ栽培のスキルアップを図り、良好なウメの栽培管理に留意し、清田区ふるさと遺産として平岡公園梅林の魅力アップに努めた。また、園内の豊かな自然を活用した各種観察会等を開催し、環境教育の場としての利用促進に努めた。

(1) 魅力ある公園づくりと情報発信

1) 札幌の花見の名所としての梅林の魅力発信

梅林では、独自の開花予測を公表し、開花後も日々の状況を公式ウェブサイトでリアルタイムに発信したほか、マスメディアへのプレスリリース、取材対応などに力を入れた。(期間中来園者数 127,853 人)

また、利用希望の多い車いすの貸出を梅林で実施するなど、誰もが花見を楽しめる環境の整備に努めた。

2) 市民協働による環境教育の拠点として、自然と触れ合う機会の提供

園内の多様な自然資源を活用し、市民・近隣住民・市民団体・大学等との連携により、環境教育の拠点として充実を図り、住宅地に囲まれた公園の自然景観保全にも努めた。

また、近隣小学校や大学の環境教育授業の協力・支援を行った。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
① 公園ツアー	8 回	65 人	3 回雨天・新型コロナウイルス感染拡大防止により中止
② ヘイケボタル観察会	2 回	66 人	1 回雨天中止
③ ひらおか自然まるごと探検隊	4 回	65 人	子どもゆめ基金助成事業イベント
④ 愛犬といっしょの公園散歩講座	1 回	8 人	
④ 雪のおうちイグルーを作ろう	1 回	23 人	

■ボランティア団体との協働イベント一覧

イベント名	回数	参加者数	備 考
① ながぐつの土ようび	7 回	209 人	1 回雨天中止
② ツリーウォッチング	7 回	63 人	1 回雨天中止
③ にぎわいフェスタ	2 回	114 人	夏・冬

■学校等の授業への協力一覧

学校名	回数	参加者数	備 考
平岡南小学校(3 年生)	2 回	204 人	平岡どんぐりの森と協働で対応 春・秋
平岡公園小学校(3 年生)	2 回	226 人	平岡どんぐりの森と協働で対応 春・秋
平岡中央小学校(3 年生)	1 回	16 人	
札幌市立大学デザイン学部	1 回	30 人	

(2) 他団体と連携した活動

ウインターライフ推進協議会との共催で、冬期に雪を利用した遊びとして「雪と氷の自然あそび体験～雪のおうちイグルーを作ろう」を開催した。(参加者数 23 人)。

2 市民協働、地域連携による公園づくり

(1) 市民の参加・協働による地域の活性化を目指して

地域住民とのコミュニケーションの活性化と公園における市民活動の推進のため、ボランティア活動に意欲のある市民を積極的に受け入れた。活動の支援のため、ボランティアコーディネーターを配置し、市民協働による管理運営を進めた。

■平岡公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
平岡どんぐりの森	14 人	25 日 延べ 168 人	人工湿地管理・環境イベント等
梅ボランティア	6 人	10 日 延べ 51 人	ウメ管理 台風地震被害で減少
パークゴルフボランティア	24 人	202 日 延べ 720 人	パークゴルフ場管理

■清田南公園の活動ボランティア

活動団体名	人数	活動日数、延べ人数	備考
清田南公園野球場ボランティア	1 人	—	少年野球場の利用調整

(2) 平岡公園の利活用や環境保全に関する連携

公園の財産である自然環境を保全し、環境教育等への活用を進めていくため、ボランティア団体や大学、研究者等と連携して環境イベントや公園管理を行ったほか、話し合いの場として「はらっぱ会議」を開催し、中長期の方向性を見すえた保全・管理に継続して取り組んだ。このほか、今年度より「平岡公園利活用協議会」を近隣の町内会・学校・ボランティア団体等に公園とのかかわりを持って頂く為に開催を予定していたが新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催を見合わせることにした。

3 利用料金収入

利用料金収入合計 4,438,600 円 (平岡公園テニスコート・野球場、清田南公園テニスコート)

平岡樹芸センター

1 普及啓発・利用促進事業等

2.9 ヘクタールの園内に北国向けの豊富な樹木や日本庭園、西洋庭園を備え、札幌市都市緑化植物園として緑化の啓蒙並びに家庭園芸の普及を目指すとともに、北国の造園技術、知識の継承を目的とした市民向けの実践型講習会を札幌造園技能士会と連携して開催した。

また、地域の貴重な観光資源であるサクラ、モミジの並木などの美観向上を目的とした整枝・剪定作業に力を注ぎ、公式ホームページへの開花情報の掲載やメディアの活用により、効果的な利用促進に努めた。

■自主事業による開催イベント一覧

事業名	回数	参加者数	備 考
①園芸教室	18 回	延べ 248 人	マツ、ツツジ、オンコ、果樹等の剪定等
②クラフト講習会	2 回	16 人	あけびを活用したクラフト講習会
③“みどりーむ”こども夏まつり	1 回	559 人	環境サポーターズ「三次郎の会」と共催
④第 11 回ひらおか庭園コンサート	1 回	634 人	環境サポーターズ「三次郎の会」と共催
⑤まちに灯りを in みどりーむ	1 回	220 人	環境サポーターズ「三次郎の会」と共催

2 市民参加・協働等

当園で活動しているボランティア団体である環境サポーターズ「三次郎の会」及び樹木会を適切にサポートすることにより、効率的な植物・樹木の維持管理に努めた。

このほか、環境サポーターズ「三次郎の会」とは、年に3回のイベント事業を協働で開催し、地域振興と利用促進を図っている。

■ボランティア団体の活動状況

団体名	活動日数	人数	団体名	活動日数	人数
環境サポーターズ 三次郎の会	35 日	延べ 247 人	樹木会	48 日	延べ 166 人

また、11 月に「平岡樹芸センター合同利活用協議会」を開催し、札幌市、近隣町内会、小中学校、地域まちづくりセンターなどの関係機関及び諸団体と平岡樹芸センターの利活用・運営について協議を行った。

その他、生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの参加施設として、市民への情報の発信や、連携事業である生き物クイズラリーに参加した。

3 緑の相談

市民園芸の普及、支援のため、冬期を除く週2回(水曜、土曜)、緑の相談業務を行った。相談件数は、783 件であった。

4 利用料金収入

利用料金収入合計 46,480 円(講義室)

農試公園・発寒西陵公園

1 普及啓発・利用促進事業等

農試公園は小学校や住宅地に近く、また隣接地で新たな宅地造成がなされ、若い家族世帯の利用も増加しており、四季を通じて健康づくりとスポーツを楽しめる公園として、多様な利用者に魅力ある公園となるよう、施設の有効活用に努め、様々なイベント・講習会等を企画・開催した。さらには、複数の手段により公園利用に関する情報発信を行い、利用促進に努めた。

(1)公園施設の活用推進、イベント・体験講習会等の開催

屋内広場アリーナでは、通常のスポーツ等の利用のほか、幼稚園や保育園の運動会など、多様な持ち込みイベントに柔軟に対応し、実施に協力した。また、サッカースクールやかけっこスクールを開催し、トップアスリートの指導のもと、子どもたちの技術習得や競技能力向上、交流促進に努めた。

その他、交通コーナーでの交通安全教室、トンカチ広場での木工作ワークショップの開催など、公園の資源を活かした利用促進に努めた。また、親子で楽しめるイベントや体験型講習会を多数開催し、市民が気軽に参加できる体験の場としての公園利用を推進した。

(2)冬期間における公園活用の促進

屋内広場アリーナは、冬でも陽のぬくもりを感じながら土の上でスポーツができる施設としての効果を最大限に発揮できるよう日常整備を行い利用促進に努めたほか、屋内広場内サンルームでは、親子をターゲットとしたモノ作りの講習会を数多く開催した。

屋外では、多目的広場や芝生スタンドのスロープを圧雪・整備し、歩くスキーコース(2.2km)やスキー・ソリスロープを設置して雪上での運動・レクリエーションの場として開放した。また、スノーモービルでタイヤチューブを牽引する「わいわいタイヤチューブ」を運行し利用促進を図った。

■自主事業による開催イベント等一覧

イベント名	開催月	参加者数	イベント名	開催月	参加者数
①のうしグリーンマーケット(2日)	5月	500人	⑳ハロウィンリースづくり	10月	19人
②のうしトンカチ塾	5月 7月 8月	20人	㉑葉っぱスタンプでトートバッグづくり	11月	27人
③はじめての自転車教室(3日)	5月	48人	㉒パークゴルフ初心者講習会	12月	4人
④はじめての寄せ植え講習会	5月	10人	㉓クリスマスリースづくり(2日)	12月	47人
⑤自転車安全教室	5月	20人	㉔明日のアスリート研究所vol.2サッカー教室	12月	60人
⑥ノルディックウォーキング講習会	6月 9月	13人	㉕しめ縄リースづくり	12月	25人
⑦苔テラリウムづくり	6月	9人	㉖門松づくり	12月	25人
⑧忍者になって修行だ！	6月	31人	㉗はじめてのスキー教室	1月	5人
⑨吊りシノブづくり	6月 7月	14人	㉘新春凧づくり	1月	50人
⑩交通安全子供自転車北海道大会	6月	20人	㉙歩くスキー初心者講習会	1月	16人
⑪琴似発寒川さかなウォッチング	7月	33人	㉚冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう	1月	30人
⑭第10回のうし夏まつり(2日)	7月	2,500人	㉛公園であそぼ！冬の防災プレーパーク	1月	191人
⑮素焼き鉢で風鈴づくり	8月	17人	㉜種まき講習会	2月	中止
⑯公開さかな調査	8月	34人	㉝苔玉づくり	3月	中止
⑰第12回のうし秋まつり(2日)	9月	1,000人	㉞ナチュラルリースづくり	3月	中止
⑱秋の星空観察会	10月	中止	㉟わいわいタイヤチューブ(15日)	1月 2月 3月	1,291人
㉑サケ観察会	10月 11月	66人			

■自主事業によるスポーツスクール

スクール名	回数	のべ参加者数	スクール名	回数	のべ参加者数
のうしサッカースクール 通年毎週水曜日開催	37回	1,039人	のうしかけっこスクール 通年毎週月曜日開催	21回	427人

(3)札幌市民、近隣住民への情報発信

公式ウェブサイトを活用し、基本的な利用情報のほか、公園の冬期利用促進につなげる各種アクティビティの情報を新たに動画で配信するなどタイムリーな情報発信に努め、アクセス件数の増加を図った。

また、農試公園の有料施設やイベントの利用促進を図るため、毎月の施設利用情報等を記載した広報紙「農試公園だより(A3 両面二つ折り)」を約 3,500 部作成し、市内各施設及び近隣町内会等に配布した。

このほか、広報さっぽろやマスメディア、フリーペーパー等に積極的に情報提供し利用促進に努めた。

2 市民協働による公園管理・利活用の推進

農試公園では、緑化ボランティア「カポック」が毎週月曜日に屋内の観葉植物や園内花壇の植栽・維持管理、花苗育成などの活動を行った。花苗・育苗土・ハンギング用プランターなどの必要な資材等を提供し、活動を支援した。

また、西区地域振興の連携事業として、「八軒まちづくり協議会」に参加し、八軒連合町内会主催イベント「交通安全教室」の実施協力、「八軒地区青少年育成協議会」への出席など、防災・防犯、健康づくり等の様々な分野で協力体制の強化を図った。

教育機関との連携事業としては、八軒西小学校 3 年生の総合学習として農試公園のフラワープランターへの花植えや花壇へのチューリップの植え込み体験、6 年生による職業体験など、社会学習の場として公園の利活用を推進した。

3 利用料金収入

改修工事が終了した屋内広場アリーナは昨年度に比べ全体として増収となったが、稼働率が最も高くなる 3 月は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため施設を閉鎖することとなり、3 月は減収となった。屋外施設は概ね昨年度と同等の結果となった。

利用料金収入合計 14,582,520 円

(農試公園野球場・硬式テニスコート・軟式テニスコート・屋内広場アリーナ、発寒西陵公園硬式テニスコート)

手稲稲積公園・北発寒公園・前田公園

1 普及啓発・利用促進事業等

雄大な手稲山のすそ野に位置する手稲稲積公園は、「主として運動の用に供することを目的とした」市内で 4 箇所の運動公園の一つで、ていねプールをはじめ、市内最大規模の多面数テニスコートや野球場、パークゴルフ場などの運動施設を備えている。小規模ながら野球場やテニスコート等の有料運動施設を備えた手稲区の地区公園である北発寒公園・前田公園と合わせ、手稲区はもとより市内のスポーツの拠点として、市民の幅広い利用を促進するよう管理運営事業を行った。

(1) 健康づくりやレクリエーションを通じた交流の場とスポーツの拠点としての価値の向上

公園の緑に囲まれた環境にある有料運動施設を良好な状態に維持管理し、四季を通じた市民の健康づくりや交流の場としての魅力を高めるため、スポーツへの新たな参加機会の提供としてテニス講習会やノルディックウォーキング講習会を実施し、また地域とみどりの交流の場の創出として子どもや主婦層を対象としたクラブ体験や「冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう」等のイベントを実施し、参加者からも好評であった。

■自主事業による開催イベント・講習会の一覧

月日	名称	参加者数
6/15	①ノルディックウォーキング講習会	5 人
9/9	②テニス講習会	18 人
9/17	③ノルディックウォーキング講習会	7 人
10/21・22	④木の実のリース講習会(午前午後/計 4 回)	49 人
1/18	⑤冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう	100 人

2 地域との連携・市民協働事業等

3 公園とも周辺に複数の町内会がある住宅街の中心に位置する公園であることから、特に地域との交流と相互理解、町内会や近隣施設等との連携協力を重視した公園管理運営を行った。

(1) 市民に親しまれ活用される公園づくり

地域の中で公園の果たす役割を考え、公園の価値を高めていくことを目指し、町内会、まちづくりセンター、

幼稚園、学校等の参加により「手稲稲積公園利活用協議会」を継続して開催し、公園運営への理解を深めていただき、また各町内会や学校、公共施設等からの意見・要望を傾聴し、管理の参考とした。

また、手稲稲積公園のパークゴルフ場ではボランティア活動の取組みとして、同好会団体と協働でコース管理等の活動を実施し、利用者の声を直接聞くことで管理運営のレベルアップを図った。

(2) 地域への貢献と近隣との連携・協働を目指した公園づくり

近隣の小中学校等の教育機関による「体験」や「学び」の場としての公園利用では積極的な協力のほか、地域イベントへの参画・協力など、町内会や関係団体との連携・協働に努め、地域に根ざした公園利用の促進を図った。

また、近隣連合町内会と児童会館、まちづくりセンター等の公共施設、小中学校等の教育機関、警察や消防、病院等とで組織する「稲積安心・安全まちづくり協議会」に当公園管理事務所も加盟しており、同団体による地域の防犯・防災、安心安全な地域づくりへの協力貢献に努めた。

このほか、近隣町内会からの要望により、通勤通学などで園路を通して JR やバスなどの公共交通機関を利用する方が冬期間でも安全に通行できるよう降雪状況に応じて園路除雪作業を実施した。

■ 地域との連携等の実績一覧

月日	名称	主旨・内容	参加者数
5/15～	いなづみ花クラブ(全4回)	児童会館の小学生を対象として、花壇の植込みや水やり、手入れ等を通じて植物が成長する喜びや学びを体験する活動	32 人
6/20	稲積小学校3年生 花苗植込実習	稲積小学校 3 年生が休養広場花壇にサルビアやマリーゴールドなどの1年草の花苗を植える体験実習	46 人
8/4	前田ふれあいまつりへの協力	前田連合町内会が主催する夏まつりの運営に協力し、体験や売店等の催事出店	1,800 人
11/7	木工クラフト体験事業(いなづみ児童会館と共催)	園内で採取した植物材料を使用した木工クラフトや松ぼっくり釣りの体験	22 人
11/21	公園利活用協議会	公園周辺地域との意見交換や情報共有を通じて連携・協働を図る場として開催	11 人
6/25～	稲積安心・安全まちづくり協議会 (計6回参加)	協議会に加盟し、総会、役員会、講演会、講習会、落葉清掃に参加	—
3/11	いなづみ児童会館連絡協議会	いなづみ児童会館の連絡協議会に参加し、年度の事業報告と次年度事業の検討に参加	—

3 利用料金収入

テニスコートでは、改修工事中であった手稲稲積公園の12面テニスコートが供用開始となり、競技団体の大会利用が集中したこともあり、休憩所等の開・閉場時間や大会の使用コートの利用時間など柔軟に対応し大会運営に協力した。

また、9 月から公園駐車場が改修工事によりいねプール駐車場を代替駐車場として利用対応を行ったほか、工事に伴う利用調整のほか、大会開催レベルでの砂入り人工芝コートの適正なメンテナンスに努めた。

その他の施設管理においては、施設の老朽化や使用劣化に対処しながら整備を行い、運動公園の指定管理者として運動施設の良好なコンディション維持に努めた。

利用料金収入合計 11,018,010 円(手稲稲積公園硬式テニスコート・野球場、北発寒公園硬式・軟式テニスコート・野球場、前田公園野球場)

1 普及啓発・利用促進事業等

前田森林公園では、ポプラ並木やカナールをはじめとした景観の維持や、自然環境保全に留意した維持管理を行い、ボランティア団体や教育機関との連携による環境学習やイベントの開催、携帯端末等の情報発信ツールの活用による広報を行った。このほか、前田森林公園パークゴルフ場では、地域団体との連携による交流大会を開催するなど、公園・緑地の利用促進に努めた。

(1) 魅力ある公園づくりと情報発信

1) 修景施設を活かした賑わいの創設

前田森林公園では、壮大なポプラ並木や青空が映り込む美しいカナール、年間を通して楽しめる花木などの魅力発信に努めたほか、道内最大級の大パーゴラ(藤棚)のフジを適切に管理するとともに、開花に合わせたイベント「ふじまつり」を開催し、参加者にはコンサート、ボランティアによるクラフト体験、特別プレーパーク、縁日などを楽しんでいただいた。今年度は春先の高温でフジの開花が早まりイベント開催日には盛りを過ぎていたため、前年比 2,000 人減の 2,000 人の参加となったが、フジの最盛期は展望ラウンジ委託売店の売り上げが 144%増となったため、来園者が増加したと考えられる。

2) 情報発信・共有ツールの活用や対話による地道な誘致活動

各公園・緑地に適したイベントや講習会を企画・開催したほか、広報においては情報発信・共有ツールとしてインターネットを積極的に活用した。

公園のアンケート結果から、当園公式 Twitter から情報を知り得た方は昨年度回答者の 8.2%を超え 12.6%に上がり、フォロワー数は昨年度 3 月末 3,985 人から今年度 3 月末 4,454 人と増加した。また、公式ホームページはアンケート回答者 5.1%、昨年比 109%の閲覧数となり、その他のインターネット 1.7%と合わせるとアンケート回答者の 2 割に近い方がインターネットを利用して公園情報を得ていることがわかった。

(2) 公園の利用促進につながる自主事業

公園の魅力を高め、資源を活用して利用促進を図ることを目的とした各種自主事業等を企画・実施した。

■利用促進事業一覧

利用促進事業	開催時期・回数	参加者数
①カナール春夏秋清掃	4,7,11 月(3 回)	64 人
②トンカチ広場	5～9 月(8 回)	420 人
③ふじまつり	6 月(2 日間)	2,000 人
④プレーパーク	5～10 月(7 日)	391 人
⑤自然観察会	6～2 月(5 回)	108 人
⑥前田北小学校エゾアカガエルの自然学習	5～7 月(3 回)	各回 56 人
⑦パークゴルフ交流大会(山口緑地)	7 月	123 人
⑧クリスマスリース講習会	11 月(2 回)	10 人
⑨ミニ門松づくり講習会	12 月(2 回)	10 人
⑩スノーラフティング	1～2 月(16 日)	142 人
⑪クロスカントリースキー初心者講習会 A・B・C	1 月(3 回)	85 人
⑫雪遊び場作成ボランティア	1 月	7 人
⑬冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう 2019	1 月	50 人
⑭クロカン簡単初心者講習会	1,2 月(5 回)	38 人
⑮歩くスキーレンタル	1～3 月(58 日間)	1,714 人
⑯スノーラフティング(星置公園)	2 月	59 人
⑰ちょっとだけドッグラン	2 月 3 月(2 日間)	中止

2 市民・団体との協働、学校教育での公園利用への対応

市民が気軽に親しみをもって公園を活用できるよう、ボランティア団体によるイベント開催や公園の資源を活かした活動を支援した。

(1) 公園フィールドでのボランティア活動

前田森林公園で活動するボランティア「前田森林公園凸凹クラブ」と連携して、園内植物の廃材を使った木工工作が体験できるトンカチ広場や自然観察会を開催した。また、地域の企業や昨年度発足した前田森林公園クリーンボランティアのほか、一般市民の方にも、カナールを含めた公園の清掃活動に参加いただき、景観の維持に貢献していただいた。このほか、明日風公園では、花壇管理ボランティアに対して資材等を提供するなど、活動の支援を継続して実施した。

- ・前田森林公園凸凹クラブ 連携による普及事業の開催、公園イベントへの協力など
トンカチ広場 9回 420人 自然観察会 6回 108人
- ・市民ボランティアによるカナール清掃 3回 64人
- ・明日風フィオーレ 明日風公園花壇管理への資材（花の種子等）の提供

(2) 教育機関の公園フィールドでの活用

近隣の小中学校及び高等支援学校からの実習受け入れに対応・協力した。

前田森林公園

- ・札幌市立前田北小学校 3年生2学級 56人 3日間
- ・札幌市立稲穂中学校 7人 1日間

星置公園

- ・北海道札幌稲穂高等支援学校 8人 2日間

(3) その他の団体等との協働

- ・プレーパーク 手稲プレーパークの会による開催に協力 7回 391人
- ・スノーキャンドルイベントへの参加 約50人

＜協働事業であったが中止になったもの＞

- ・フライングディスクドッグ大会 FDS(競技団体)との連携により開催予定だったが団体都合で中止
- ・ボランティア団体「WAN ちいむ」との共催により「ちょっとだけドッグラン」開催予定が新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止

3 利用料金収入

今年度は有料施設の老朽化も進む中、適切な整備に努めるとともに、施設利用の積極的な呼びかけを行うなど、収入確保に努めた。

パークゴルフ場においては、地域団体と連携して交流大会を開催したほか、新たな利用者層(新規及び子ども)の開拓にも取り組んだ。また、良好なコースコンディション維持のため、日頃からきめ細かな管理に努めた。その結果、今年度収入は前年度を上回った。

利用料金収入合計 26,532,965 円（前田森林公園パークゴルフ場・野球場・球技場、星置公園野球場・テニスコート、明日風公園テニスコート、山口緑地西パークゴルフ場・東パークゴルフ場）

厚別公園

1 普及啓発・利用促進事業等

市民の健康増進及びスポーツの普及振興を図ることを目的として、各種運動教室やスポーツ講習会、トレーニングルームで使用するトレーニング器具の充実、冬期の歩くスキーコースの整備等を実施した。

(1) 各種運動教室の実施

高齢者を対象とした「いきいき健康体操」、小学生を対象とした「キッズバレエ」など、当初予定していた26講座に加え、第3四半期からは「健康コーディネート教室」「チューブ&ストレッチトレーニング」「いきいきエアロ&ストレッチ」の3講座を開設、健康増進と施設の有効利用を更に推し進めた。

(2) 厚別アスリートアカデミーの運営

競技者が安心して活動できる環境づくりや、各競技の普及及び発展に貢献しながら、地域の新しいコミュニティの構築や地域振興、さらに参加者の競技力向上のみならず、心の成長も目的とした事業として、厚別アスリートアカデミー(Atsubetsu Athlete Academy)を(一社)A-bank 北海道と連携し、継続運営した。事業の運営に当たっては、会員の増加を図るため無料体験会を開くなどの活動にも努めた。

(3) スポーツ講習会等の実施

気軽にスポーツにふれあう機会の提供や健康増進などの運動を始めるきっかけづくりのため、スポーツ関連教室を実施した。

- ・さわやか健康ウォーキング教室 6名
- ・ノルディックウォーキング教室 12名
- ・歩くスキー教室 60名
- ・スポーツクリニック 28名
- ・トレーニング講習会 8名

2 市民参加・協働等

公園周辺環境の向上のためラブアース・クリーンアップin北海道に参加し近隣住民と共に清掃活動を実施した。また、「厚別フラワーボランティア」など、市民参加・協働の機会を設け、地域の方々の積極的な公園の利活用に努めた。

- ・厚別フラワーボランティア 18日
- ・ラブアース・クリーンアップ in 北海道 38名
- ・西岡北中学校職場体験 4名
- ・啓明中学校職業体験 3名

3 他団体等との協働

小学生を対象とした札幌市の事業「ウインタースポーツ塾」の実施に当たり、コンソーシアム団体である(一財)さっぽろ健康スポーツ財団に対して設営準備等の協力を行い、冬期の競技場利活用に努めた(※今年度は例年よりも降雪量が少なくコース設営が出来なかったため中止となった)。ほか、厚別区の「新さっぽろ冬まつり」の企画会議に参加、共催事業として「厚別公園冬フェスタ」を開催した。また、札幌市×厚別 30周年連携として北海道情報大学による観光コンテンツ「AI 顔はめパネル ココイコ! 北海道 江厚別バージョン」パネル作成のための校正協力を行った。

- ・厚別公園冬フェスタ 1,336名

4 自主財源による利益還元

主だったものでは小学生が使用する陸上競技用貸出し備品の屋内外兼用エバーマット及びマットトラックを寄贈した。他、トレーニング機器4台など備品関係多数。

5 利用料金収入

利用料金収入合計 26,504,463円(主競技場、補助競技場、トレーニングルーム、会議室、貸し備品)

西岡公園・西岡中央公園

1 普及啓発・利用促進事業等

西岡公園を「水と緑に恵まれた多様な生物の生育・生息地」、「環境学習の活動拠点」として、西岡中央公園を「多様な利用のできる地域の公園」として位置付け、地域や市民、専門家、ボランティア団体との連携・協働による事業展開に努めた。

(1)リアルタイムな自然情報の発信

西岡公園管理事務所の展示室では、スタッフが制作した紹介展示物や、公園で見られる生物の展示などを季節毎に提供したほか、園内の最新自然情報を掲示板等により発信するなど、自然に親しむ目的で来園した市民のニーズに的確に対応した。また、公式ウェブサイトでも、常に最新の自然情報、イベント情報を発信し、自然観察や体験等をはじめとする公園の利用促進に努めた。

(2)自然や生物に関する講座・観察会等の開催

西岡公園には多様な自然環境とそこに生息する生物が多くあり、中でも生息種数の多いトンボや身近なカエル、昆虫などについて、観察をしながら生態と自然環境との関係を学ぶ観察会を実施した。また、植物や野鳥など自然の見どころや公園の歴史を散策しながら解説するおさんぽガイドのほか、市民が地域の文化を楽しむ行事カルチャーナイトの企画として、園内で見られる生物に関する各種の講座を開催し、自然や生物への関心と生物多様性保全への理解を深める取組を展開した。このほか、特定外来生物の防除活動としてオオハンゴンソウの駆除を実施し、勢力拡大の防止、自然環境の保全に努めた。

(3)子どもの外遊びの推進

西岡公園の豊かな自然環境を生かし、子どもたちが自由な発想で遊びをつくる場として、プレーパークを7回開催し、計 503 名の参加があった。西岡公園で活動するボランティア団体「遊木森森」と連携して、季節に応じて子どもが生み出す遊びをサポートした。

2 地域との連携・市民協働事業等

(1)西岡公園におけるボランティア団体の活動とサポート

西岡公園では6つのボランティア団体が活動し、各団体の活動目的は木工工作、植物調査、公園ガイド、プレーパーク運営、花壇管理、ヤンマ団・さかな組の活動の指導・サポートと多岐にわたっている。各団体との間に構築された良好な関係を維持するため、継続して活動しやすい環境づくりに努め、様々なイベントを協働体制で開催した。

ボランティア6団体の協力により、プレーパークや自然観察会、木工クラフトなど公園の自然を活用したイベント「にしおかピクニック」を9月に開催し、多くの参加者に公園と自然の魅力を提供することができた。

なお、新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、2月下旬以降に開催を予定していた子りす工房やスノーキャンドルイベントは中止となった。

■ボランティア団体との協働によるイベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
①子りす工房	64 人	③にしおかプレーパーク	503 人
②おさんぽガイド	137 人	④にしおかピクニック	200 人

(2)西岡中央公園における地域ボランティアとの協働

パークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、協働で園内施設の維持管理を実施したほか、利用者の意見・要望等を直接聴取することについて取り組んだ。

3 環境教育・自然環境の保全・調査

西岡公園の多様な水辺の生きものを対象とする「西岡さかな組」と、一湖沼におけるトンボの種数が北海道で一番多いとされる西岡公園でのトンボを対象とした「西岡ヤンマ団」について、子どもたちによる 1 年間の調査活動参加者を募集し、それぞれ調査の実施から成果を広く公開する活動報告展・展示解説までを年間プログラムとして設定して活動した。

これらの活動は、専門家や生き物を研究する大学生、子ども達の保護者、西岡さかな組と西岡ヤンマ団を卒業した中高生がボランティアスタッフとして指導や運営のサポートに関わってくださることで、より一層、環境教育活動の促進や、環境保全の啓発等につなげることができた。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により3月に開催を予定していた博物館活動センターでの活動報告展は中止となった。

■西岡さかな組・ヤンマ団の活動

団体名	活動日数、延べ人数	活動内容
西岡さかな組	15 日、 115 人	水生生物の調査、展示ポスター作成、報告展、展示解説
西岡ヤンマ団	14 日、 124 人	トンボの調査、標本作り、展示ポスター作成、報告展、展示解説

4 利用料金収入

融雪や天候等の状況に合わせて、有料施設の開放日を早め、また閉鎖日を遅らせたほか、利用状況に合わせた点検、清掃を行うなど、利用促進に努めた結果、収入が前年度を上回った。

利用料金収入合計 689,280 円(西岡中央公園テニスコート)

札幌市豊平川さけ科学館

1 普及啓発・利用促進事業等

豊平川や琴似発寒川、星置川などの身近な川に遡上・産卵するサケをより多くの市民に見ていただくため、観察会の実施やインターネットによる観察情報の発信、河川でのサケ観察につながる展示解説を館内で実施し、豊かな自然体験が市民の心の財産となるよう、普及啓発に努めた。また、市内に生息する水辺の生き物の展示などにより、サケに限らない生物多様性の保全につながる教育普及活動にも積極的に取り組んだ。

(1) 市民にとって魅力あるさけ科学館づくり

1) 楽しく見学し、学べるさけ科学館

サケや市内に生息する水辺の生き物等を、子どもでも楽しく学べるように、親しみやすいキャラクターを活用し、分かりやすく伝える展示物の作製や解説を行った。また、サケ親魚・受精卵・発眼卵・稚魚をより多くの方に見ていただけるよう、それぞれの展示期間の調整に努めた。年間入館者数は、12月～3月は、本館改修工事及び新型コロナウイルスの影響に伴う臨時休館のため、冬季間の入館者数は大幅に減少したが、4月～10月の入館者数が伸びたため、前年度から8.3%増の50,645人となった。

2) サケの魅力を生かしたイベント・学習の実施・情報発信

「サケ稚魚体験放流」は、ゴールデンウィークにサケにふれあう体験行事として市民に定着しており、4日間で3,416人が参加した。多くの市民が来館する機会に、放流魚だけではなく、豊平川の野生サケについての普及啓発も、札幌ワイルドサーモンプロジェクト(SWSP)と連携して実施した。また、エコネットワークが主催する「サーモンフットパス」に協力し、札幌の河川を取り巻く自然環境をエコネットワークが担当し、豊平川・真駒内川及び琴似発寒川のサケについてはさけ科学館が行い、お互いの得意分野を生かして解説普及活動を実施した。サケ学習の指導・協力としては、小学校でサケの卵を稚魚まで飼育するサーモンスクールのほか、東白石小学校や東橋小学校に対して、サケの遡上観察、人工受精から卵・稚魚の育成、河川放流までの一連の学習をサポートした。

9月には、サケに関する知識や体験をより親しみやすく身近な形で提供することを目的として、子どもたちが楽しく学べる体験プログラム等を多数盛り込んだイベント「さっぽろサケフェスタ2019」を開催し、3,408人の来場者となった。新企画として、(公財)日本釣振興会北海道支部の協力のもと、ヤマメ釣り体験・釣り教室を実施し、来場者に大変好評を得られることができた。

これらの行事・イベントでは、通常の広報手段に加え、専用の広報ポスター、チラシ等を製作・配布し、広く事前PRに努めた。

このほか、サケが遡上・産卵する札幌市内の河川で観察会を実施し、サケの見つけ方や産卵行動、産卵環境、ホッチャレの役割などについて解説した。

- ・琴似発寒川サケ観察会(2回) 102人
- ・豊平川サーモン・ウォッチング 21人
- ・星置川でサケを見よう 48人

3) その他の教育普及イベントの実施

サケや水辺の生き物に興味を持っていただくために、来館者が事前の申込みなしで気軽に参加できるものから、じっくりと学ぶことのできる実習まで、多様なニーズに対応した各種体験イベントを企画・実施した。

■体験イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
サケたちのエサやり体験(16回)	582人	公開さかな調査	34人
知る・見る、カニさん、ザリガニさん	37人	真駒内川ミニ水族館	67人
北の沢川さかなウォッチング	26人	わくわく受精体験(2回)	133人
星置川さかなウォッチング	11人	サケ採卵実習	10人
琴似発寒川さかなウォッチング	33人	わくわく体験サケタッチプール(5回)	476人
札幌ワイルドサーモンプロジェクト 市民フォーラム 2020～サケと生きる～	174人		

(2) 他団体と連携した活動

1) 地域連携を軸とした、開かれた施設管理と活動の推進

水辺環境の情報を広く発信するため、地域住民・団体との連携を進め、運営の活性化に努めた。特に多数の参加がある春と秋のイベントについては、地域の自然系活動団体や大学、研究機関、町内会などと連携して開催した。また、相手先の団体等が実施するイベント・講座等にも協力することで、相互の活動の発展に努めた。

実習やイベント、飼育、調査などをサポートする「さけ科学館ボランティアの会」は33年の歴史を有し、現在も学生等にとっては社会勉強の場として、一般市民には生涯学習や地域社会への参加の場として、有意義な活動を継続して行った。

2) 市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携した、豊平川の野生サケ保全活動への取組

過去の調査により、約7割の個体が自然産卵由来の「野生サケ」であることが判明した豊平川において、市民団体「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」と連携して、野生サケの優先的保全に継続して取り組んだ。サケ稚魚の放流数をいったん減らし、野生魚と放流魚(耳石温度標識を施標)の割合を継続的にモニタリングして順応的に管理する手法を導入し、調査を継続している。このほか、市民フォーラムなど例年の取組のほか、サーモンフットパスの企画・開催や、豊平川産卵環境改善試験において成果が見られるなど、市民協働での活動を進めた。

2 調査・研究等

(1) サケ遡上親魚の捕獲・産卵状況調査

サケの遡上状況の確認のため、一部のサケ親魚を網等で捕獲し、体長・年齢などを記録した。また、河川での産卵状況も併せて調査し、産卵箇所数からサケの遡上数を推定した。調査と並行して、産卵場所・周辺の状況を巡視確認し、豊平川やその他市内河川でのサケ産卵環境の把握に努めた。

調査の結果は、サケの観察情報としてブログや館内掲示等で随時公開したほか、河川内の工事に先だって、サケへの影響に配慮した工法・期間等を検討する際の基礎資料としても活用された。

■サケ遡上・産卵状況調査の結果

河川	産卵数	推定遡上数	河川	産卵数	推定遡上数
豊平川	497 箇所	994 尾	星置川	47 箇所	94 尾
琴似発寒川	240 箇所	480 尾	濁川	1 箇所	2 尾

(2) 札幌の水生生物等の生息状況調査

札幌市内・周辺の水辺において、生物の生息状況の調査を継続的に実施した。調査にあたっては、地域住民や活動団体、他分野の研究者などと積極的に連携し、また、水辺を含む広い視点での環境の把握に努めた。

58 地点で調査を実施し、計35種の魚類・甲殻類を確認した。開館当初から34年以上に及ぶ調査の結果は随時整理・公開し、札幌の水辺における生物多様性保全に向けた基礎資料として活用した。

9月28,29日に、豊平川において特定外来生物の「ウチダザリガニ」を初確認し、環境省北海道地方環境事務所や札幌市環境局環境都市推進部環境管理担当課等と情報を共有し、円山動物園において開催された「第2回ニホンザリガニ会議」において、「豊平川で確認されたウチダザリガニについて」報告をした。市民や大学の研究者等とも情報を共有し、今後の対策について検討することができた。

(3) 大学・研究機関等の調査・研究への協力

大学や研究機関などからの調査や実験への協力、調査記録の提供など、計29件の依頼があった。これらに対して積極的に対応し、また、研究等の成果をさけ科学館の教育普及に活用した。

主な協力先:札幌市(下水道河川局河川事業課、環境局環境管理担当課、円山動物園)、(国研)寒地土木研究所、北海道開発局、札幌河川事務所、北海道環境局生物多様性課、(公社)北海道栽培漁業振興公社、標津サーモン科学館、北海道大学、東京学芸大学、東海大学、東京工科大学等

月寒公園・吉田川公園

1 普及啓発・利用促進事業等

月寒公園は、昨年度で再整備工事が概ね完了し、7月には水のあそび場がオープンした。新しくなった公園の人気の高まる中、休日は園内が混雑する状況が続いたが、安心安全な場の提供と、多様な公園活動および市民協働の推進に重点を置いて管理に取り組んだ。

(1) パークライフセンターを拠点とした情報発信

パークライフセンターの来館者数は、前年度の 115,537 人/年からほぼ倍増し、211,331 人/年となった。春から秋は、休日の来館者数が 2,000 人を超える日もあることから、館内のイベントを控えて利用者対応と清掃を強化し、公平平等な利用に努めた。冬期は来館者も減少することから、小規模なクラフト体験等の館内イベントの回数を増やすとともに、園内の伐採木を活用した薪ストーブを使うことで、居心地の良い空間の提供と電気使用量の軽減に取り組んだ。

(2) 幼児向けイベントの充実

平日の昼間は、未就学児親子の利用が多いことから、幼児向けのイベントを強化した。おままごとセットやチョークと黒板など、幼児向けの遊び道具をいれた「プレーリヤカー」の貸出と、プレーリヤカーを使ったイベントを実施した。また、読み聞かせとお散歩を楽しむ「おやこでわくわく月さむぼ〜うたとえほんともりあそび」を四季で開催し、自然ウオッチングセンターと共催で「ちびっこ遊び隊！」を開催した。これらのイベントはリピーターも多く、自然に親しむ機会や子育ての情報交換の場としても活用され、地域の子育て支援の場としての役割も果たす可能性を感じている。

■未就学児対象イベント一覧

イベント名	回数	参加者数
①プレーリヤカーであそぼう！	5回	157 人
②おやこでわくわく月さむぼ〜うたとえほんともりあそび	4 回	64 人
③プレーリヤカーで“ちびっこ外あそび場”をつくろう！	1 回	14 人
④ちびっこ遊び隊！	1 回	31 人

(3) 多様なイベントの開催

月寒公園の再整備のコンセプトである「パークライフ」に基づき、多様なイベントを開催した。イベントの実施にあたっては、様々な市民団体と連携し、つながりから生まれる多様な公園活動を推進した。

■自主事業による開催イベント一覧

イベント名	回数	参加者数
①月寒公園であそぼうかあい(プレーパーク)	10 回	312 人
②クラフト体験	44 回	166 人
③ノルディック・ウォーク体験会	5 回	37 人
④パークゴルフ大会	2 回	63 人
⑤つきさむパークヨガ	5 回	27 人
⑥月寒公園生きもの観察会	4 回	31 人
⑦野の花を植えよう	1 回	26 人
⑧公園あそびらぼ②「ちいさい秋み〜つけた！」	1 回	28 人
⑨ネイチャーエデュケーションから読み解く身近な自然の楽しみ方	1 回	18 人
⑩プレーパークステップアップ講座「たのしくあそんでこどもはそだつ〜0123歳の“外あそび”のススメ	1 回	35 人
⑪秋の月寒公園体験会	1 回	38 人

2 市民団体・活動団体との連携、市民協働

(1) 月寒公園市民協議会（月寒公園ファンクラブ）との連携

再整備を検討する経緯の中で市民により設立された月寒公園ファンクラブと共催で、季節ごとに3つの大規模イベントを開催した。企画から運営まで協働で進めることで、地域の資源を活かした多彩な企画を実施することができた。

■月寒公園ファンクラブとの共催事業一覧

イベント名	参加者数	活動内容
①カルチャーナイト 2019	369 人	パークライフセンターを夜間開放し、コンサートとクラフト体験を実施
②月寒公園ピクニック	4,520 人	ファンクラブ所属団体による落ち葉かきやコンサートのほか、あんぱんをテーマに、区内パン屋の出店販売を実施
③あそन्दル！～つきさむこうえんで雪あそびとスノーキャンドル	756 人	スノーキャンドルづくりやプレーパークを実施

(2) ボランティアとの連携

月寒公園では、シバザクラエリアの除草や花壇の管理を行うボランティアを支援した。吉田川公園では、パークゴルフ場のコース管理と多目的広場の管理を行う2団体が活動し、協働で園内施設の維持管理を実施した。

■ボランティア団体による活動一覧

団体名	登録人数	活動内容
月寒公園ボランティア会	14 人	シバザクラエリアの除草、花壇の管理
東月寒レオンズ (吉田川公園多目的広場ボランティア)	4 人	多目的広場の管理運営
吉田川公園パークゴルフ振興会	4 人	パークゴルフ場の管理運営

3 利用料金収入

利用料金収入合計 9,370,295 円

(月寒公園野球場(坂下・高台)・テニスコート・パークゴルフ場・貸ボート、吉田川公園テニスコート)

旭山記念公園

1 普及啓発・利用促進事業等

札幌市街地を一望できる眺望と、札幌市内でありながら豊かな自然環境がある当該公園を活かした、多様な環境教育事業を企画して市民団体や近隣教育機関等と協働で実施するとともに、公式ウェブサイト等によるタイムリーな野鳥情報等の発信を行うことで、公園の利用促進、環境教育、みどりの普及啓発に取り組み、公園の魅力向上に努めた。

(1) 自然豊かな環境を生かした環境教育の場の提供

春のサクラや秋の紅葉の時期には多くの方が来園され、また身近に自然が楽しめる環境であることから森林浴やバードウォッチング等で近隣や市内から幅広い方に利用された。とくに近年シマエナガをはじめとした野鳥の人氣が高まっていることから、野鳥に関する環境教育事業として、定例の野鳥観察会のほか、野鳥と樹木の関係、鳴き声の聞き分け、初心者向け、旭山以外の道内野鳥情報など、多様なバードウォッチャーのニーズに応える観察会・講習会を開催した。また、園内の危険木・枯損木伐採後に発生した木材のリサイクル事業として薪割り体験会を開催し、冬期の薪ストーブ燃料の確保とともに樹木に親しむ活動の場を提供することができた。

(2) 生物多様性を保全する活動の推進

近隣小学校と連携し、当該公園の歴史や自然環境を調査し、学校新聞を作成する総合学習「旭山ウォーカー」に協力した。身近な環境から生物の多様性について学ぶ内容で実施し、環境保全の意識啓発を図ることができた。また自然調査体験プログラム「森のたんけん隊」は3年目を迎え、新たに巨木の谷で伐根・地ならしされたエリアに、蝶の食草になる樹木の苗木を植栽する等、当該公園を活用した生物保全活動等に取り組んだ。

(3) 公園の特徴を生かした広報活動

公式ウェブサイトでは自然・野鳥情報、施設情報、環境教育事業の募集・活動報告等を年間196件発信したことで、閲覧回数は104,265件となり前年度比約116%で増加した。また3月からは野鳥の動画配信を開始し、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため在宅される方へ、家に居ながら野鳥観察を楽しめるコンテンツを提供した。

(4) 社会福祉への貢献

今年度から新規の障がい者支援団体にレストハウスの管理運営を委託し、障がい者の自立に向けたサポートを行った。また委託団体へはレストハウス案内看板のデザインと制作の依頼や、野鳥等の写真を使用した缶バッジを共同で制作するなど、障がい者支援に協力することができた。

■普及啓発・利用促進イベント一覧

イベント名	参加者数	イベント名	参加者数
野鳥観察会（20回）1回中止※	315人	花の寄せ植え講習会	3人
森のたんけん隊（9回）2回中止※	167人	ネイチャーカフェ（6回）1回中止※	121人
自然観察会（5回）	36人	ノルディック・ウォーク体験講習会（2回）	14人
カルチャーナイト2019	16人	クリスマスリース作製体験	10人
旭山夏まつり	50人	スノーシュー自然観察会（2回）1回中止※	7人
旭山自然写真展（2回開催、延べ21日間）	3,704人	木工クラフト講習会「おはし作り体験」	7人
早春の植物鑑賞ツアー	7人	愛犬とひとりの公園散歩講座	18人
バードウォッチャーのための樹木観察会	17人	みんなの旭山写真展（28日間）	2,402人
コケ玉作り講習会	8人	薪割り体験	80人

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

2 市民参加・協働等

当該公園で撮影した野鳥、風景、植物などの写真を広く一般公募して展示する「みんなの旭山写真展」を開催した。市民と協力して当該公園の魅力を引き出すとともに、展示会場のレストハウスは写真を題材にした交流の場として広く活用された。

当該公園を拠点に自然環境プログラム等の活動を展開する市民団体「旭山記念公園市民活動協議会（以下、市民協議会）」と密接に連携し、環境教育事業に共催・協力して実施することで、利用促進と環境保全の啓発を行った。

■市民協議会との主な協働イベント一覧

イベント名	参加者数
WONDER FOREST IN さっぽろ	130人
星空観察会	20人
旭山森のフェスティバル	96人
冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう！2020	13人
旭山冬のフェスティバル	40人

他 1 国営公園等受託事業

滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の代表団体として、公園・園内施設の利用対応、イベント等の企画・実施のほか、管理計画に従い植物・園内施設等の維持管理業務を実施した。

1 滝野すずらん丘陵公園運営維持管理業務の総轄

- (1) 園内の総務・経理事務
- (2) 入園料の徴収事務
- (3) 植物管理・施設管理・園内及び建物清掃
- (4) 入園者数 年間入園者数 376,951 人(目標値 564,000 人の 66.8%)
※7月と9月のヒグマ園内侵入、及び3月の新型コロナウイルスの影響により臨時閉園が延べ68日間となったほか、冬休み期間の記録的少雪による影響が大きく、目標値を大きく下回った。

2 利用指導及び利用サービス等

- (1) 利用促進事業
 - すずらんメール発行 4 回/年(総配布部数 806,000 部)
 - イベントチラシ(新聞折込広告) 1 回/年(総配布部数 507,000 部)
 - 道内外旅行情報誌への広告掲載及び道外及び国外旅行フェアでのPR活動等
- (2) 利用プログラムの開催
 - 4～11 月(滝野の森開催分) 215 回 9,218 人
 - 12～3 月(全園) 77 回 6,882 人
- (3) 公式ウェブサイトのアクセス件数
3,180,550 件
- (4) ボランティア活動
 - ① フラワーガイドボランティア
 - ・登録人数 30 人(延べ 469 人)
 - ・活動期間 4 月 28 日～10 月 14 日(131 日間 ※臨時閉園期間除く)
 - ・活動内容 ガーデンツアー、巡回ガイド等
 - ・参加者数 1,563 人
 - ② 滝野の森クラブ
 - ・登録人数 54 人(延べ 1,367 人)
 - ・活動期間 4 月 11 日～3 月 31 日(131 日 ※臨時閉園期間除く)
 - ・活動内容 ガイドツアー、スノーシューガイド、森の楽校等
 - ・参加者数 2,856 人
- (5) 主なイベント
 - ① パンジー・ビオラ collection2019 4 月 28 日～6 月 16 日
 - ② シラネアオイと春の野の花まつり 5 月 11 日～5 月 19 日
 - ③ 第 9 回北海道キャンピングフェア 5 月 18 日・19 日
 - ④ チューリップ・すずらんフェスタ 5 月 18 日～6 月 9 日
 - ⑤ 森フェス～2019 Summer～ 6 月 30 日
 - ⑥ 滝野の森“野外”昆虫博物館 7 月 29 日～8 月 7 日 ※臨時閉園のため短縮開催
 - ⑦ LIGHT UP NIPPON HOKKAIDO in 国営滝野すずらん丘陵公園 8 月 25 日
 - ⑧ スポカルオータム in 滝野 9 月 28 日・29 日
 - ⑨ 道央雪合戦チャンピオンカップ 1 月 11 日・12 日
 - ⑩ ウインターマラソン 1 月 19 日
 - ⑪ たきのスノーフェスティバル 2 月 2 日
 - ⑫ たきの森フェス Winter 2 月 16 日

収 1 公園施設等附帯収益事業

公園緑地・施設利用者の利便性と市民サービスの向上及び継続的な公益目的事業の展開とその充実を図るため、公園緑地・施設内における便益施設の運営等を行った。

1 常設売店の運営

公園施設等で売店施設を運営し、オリジナル商品の販売や、公園緑地の多目的利用をサポートする備品の貸出し等を行った。また、百合が原公園、豊平公園、川下公園等では、札幌市の気候条件と季節に合った鉢花や、植物等に関する書籍、園芸用品等を販売した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、手稲稲積公園、前田森林公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、オンライン・ショップ

(2) 商品

鉢花等植物、園芸用品、オリジナルグッズ、スポーツ用品、用具レンタル(スポーツ用品、照明器具、音響設備、楽器)等

(3) 収入金額

27,576,451 円

2 臨時売店の設置運営

売店施設のない公園緑地及びイベント開催時等に臨時売店を設置し、営業した。

(1) 営業場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、前田公園、前田森林公園、山口緑地、創成川公園、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、豊平川緑地

(2) 商品

飲食物、植物、絵葉書、しおり、その他公園施設関連商品等

(3) 収入金額

24,201,705 円

3 自動販売機の設置運営

公園緑地・施設に自動販売機を設置し、清涼飲料水、冷菓等を販売した。

(1) 設置場所

大通公園、中島公園、円山公園、百合が原公園、モエレ沼公園、川下公園、厚別公園、豊平公園、平岡公園、平岡樹芸センター、農試公園、発寒西陵公園、手稲稲積公園、北発寒公園、前田森林公園、明日風公園、山口緑地、旭山記念公園、札幌市豊平川さけ科学館、月寒公園、西岡公園、西岡中央公園、清田公園、東雁来公園

(2) 収入金額

28,671,707 円

議員会及び理事会の開催等

(以下は全て承認・議決された)

評 議 員 会

定時評議員会(令和元年6月27日開催)

議 題 報告事項

平成30年度事業報告の件

決議事項

平成30年度決算承認の件

理事選任の件

みなし決議(令和2年3月30日付け)

理事選任の件

理 事 会

令和元年度第1回理事会(令和元年6月7日開催)

議 題 報告事項

代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告の件

決議事項

平成30年度事業報告承認の件

平成30年度決算承認の件

理事候補者選任の件

定時評議員会招集及び提出議題の件

みなし決議(令和元年6月27日付け)

理事長選定の件

専務理事選定の件

みなし決議(令和2年1月20日付け)

給与規則の一部改正の件

令和元年度第2回理事会(令和2年3月24日開催)

議 題 報告事項

代表理事及び業務執行理事の職務執行状況報告の件

決議事項

給与規則一部改正の件

特定費用準備資金保有の件

令和2年度(2020年度)事業計画書及び収支予算書の承認の件

理事候補者推薦及び評議員会における決議の件

令和元年度事業報告

令和元年度事業報告には重要な事項について全て詳細に記載し網羅している。

よって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第8条第1項第2号に定める事業報告書の附属明細書はない。